

昭和三年	一、四三〇	三、七五三	二五
昭和四年	二、四四八	六、四六三	四三

昭和五年	一、八四三	四、八七九	三
計	五、六九一	一四、〇六一	一〇

三 精 算 本地區に於ける契約金額一萬六千二百五十一圓九十四錢内國負擔五千二百圓六十二錢、市負擔一萬千五百一十一圓三十二錢にして、第一回前渡金は昭和三年六月十九日、第二回前渡金は同四年五月二十三日支拂手續を爲し、同五年六月二十日精算を完了したり。

設計變更の結果精算金額一萬五千六十一圓三十四錢となり契約金額に比し千九百九十圓六十錢の減額を見たり、之を工種別に見るに新設千六百七十四間二金額七千七百六十一圓六十一錢、移設四百七十四間六金額四千圓八十六錢、撤去二十八間六金額三十八圓六十一錢、埋殺千二百八十五間八金額八百六十八圓六十五錢、その他十三間六金額二千三百九十一圓六十一錢にして國市負擔區分は國四千八百十九圓六十三錢、市一萬二百四十一圓七十一錢なり、其の精算狀況を示せば左の如し。

負擔別對照表

負擔區分	潰地面積	比率%	契約金額	精算金額	差引増△減
國負擔 幹線街路費	三、七六、三三 <sup>坪</sup>	三三	五、一〇〇、六二	四、八一九、六三	△ 三〇、九九
補助線街路費	三、七〇、七九	三三	五、〇三六、一〇	四、六九〇、〇一	△ 三、九〇九
市負擔 土地整理費	四、三九、八五	三七	六、〇三三、三三	五、五七二、七〇	△ 四、〇五二
計	八、〇〇、九七	六六	一、一、〇三三、三三	一〇、一四一、七四	△ 八、〇九一
合 計	一一、八八、九七	一〇〇	一六、一三三、六五	一四、〇六一、四一	△ 一、一〇二、二四

第七地區 丙 地下埋設物其他工作物整理 四九一



左の如し。

工事種別

種別	水道		下水		市電		東電		瓦斯		計
	數量	金額	數量	金額	數量	金額	數量	金額	數量	金額	
道路工事	管線路	二	五・七								二七・〇二
	其他		五・七								三三・五
建築物支障	管線路	一	二七・〇	九四・二	二、六六二・四						一、六六二・四
	其他		二七・〇								二四八・二
出入口	電柱				三本	一五・一九	七本	七一、七九・九	一本	一、九五五・一八	一、九五五・一八
	電柱				三本	一五・一九	七本	七一、七九・九	一本	一、九五五・一八	一、九五五・一八
合計	管線路			九四・二	二、六六二・四	八・五	一六〇・九	二二・二	一、八三三・四	一、八三三・四	四、二四九・四
	其他	三	二五九・四				四・三	二七	一六〇・九	四〇・八五	二、二四九・四
計	管線路										一、九〇・七
	其他		二五九・四				四・三	二七	一六〇・九	四〇・八五	二、二四九・四

第七地區 丙 地下埋設物其他工作物整理

工事進捗状況

年 度	電 柱		管 線 路		其 の 他		計	歩 合 %
	數量	金額	數量	金額	數量	金額		
昭 和 二 年	一本	二九八・〇〇	九四・二	一、六六二・四	五	二七・三	一、九七・九三	四七
昭 和 三 年	九	一、六五八・八	一三・二	八九・四七	二七	四三三・三	二、一九九・九	五
昭 和 四 年	一〇	一、九五・八	五・〇	八・四	一	四〇・八五	四、二四九・四	二
計								一〇〇

支拂状況

年 度	國 負 擔		市 負 擔		計	歩 合 %
	金額	歩合	金額	歩合		
昭 和 三 年	四一・三	四七	一、九五二・四	四七	一、九三・六三	四七
昭 和 四 年	—	—	二、二六・二三	五	二、二六・二三	五
昭 和 五 年	—	—	五・六	一	五・六	一
計	四一・三	四七	四、二〇八・四	四七	四、二四九・四	一〇〇

第一 水 道

工事は昭和三年五月南神保町七番地先に於ける水道鉛管切廻工事を最初としそれより逐次各種工事を施行し、同四年三月通神保町六番に於ける私設消火栓移設工事を最終とし三件の工事を施行したり、而

して之に要したる整理費は二百五十九圓四十五錢なり、其の工事並支拂状況を示せば左の如し。

工事進捗状況

年 度	消 火 栓	其 の 他	歩 合 %

工事は昭和三年五月南神保町七番地先に於ける水道鉛管切廻工事を最初としそれより逐次各種工事を施行し、同四年三月通神保町六番に於ける私設消火栓移設工事を最終とし三件の工事を施行したり、而

して之に要したる整理費は二百五十九圓四十五錢なり、其の工事並支拂狀況を示せば左の如し。

工事進捗狀況

年 度	消 火 栓 其 の 他		歩 合 %
	數 量	金 額	
昭 和 三 年		一五九・四 三	一〇〇
計		一五九・四 三	一〇〇

支拂狀況

年 度	市 負 擔	歩 合 %
昭 和 三 年	五・三七 <sup>円</sup>	二〇
昭 和 四 年	一〇九・〇	八〇
計	一一四・三七	一〇〇

第二 下 水

本地區に於ける下水道工作物の整理は區劃整理街路第十五號路線中幹線街路第十三號路線より同第十四號路線に通ずる路線計畫變更に伴ひ、南神保町一番地先より同町七番地先に至る區間に於て材料撤去費(管線路九十四間二分)を補償せるものゝ一件にして之が工事は昭和二年五月著手し同年七月竣功せり、而して之に要したる整理費は千六百六十二圓四十一錢市負擔にして同四年十月支拂を爲せり。

第七地區 丙 地下埋設物其他工作物整理

第三 電 氣

(イ) 市 電

工事は昭和三年八月錦町三丁目八番地先に於ける電柱移設工事を最初としそれより逐次各種工事を施行し翌四年十一月表神保町四番地先に於ける電纜移設工事を最終とし三件の工事を施行したり、而して之に要したる整理費は二百四十六圓七十三錢なり、其の工事並支拂狀況を示せば左の如し。

工事進捗狀況

年 度	電 柱		管 線		計	歩 合 %
	數 量	金 額	數 量	金 額		
昭 和 三 年	三本	一五・一九	一冊	一・〇〇	一六・一九	七
昭 和 四 年	三	一五・一九	五・〇	八・五〇	一六・五〇	三
計					二四・六九	一〇〇

支拂狀況

年 度	市 負 擔	歩 合 %
昭 和 三 年	三・四七	三
昭 和 四 年	二四・二六	七
計	二四・七三	一〇〇

(ロ) 東 電

工事は昭和二年九月錦町三丁目八番地先に於ける電柱移設工事を最初としそれより逐次各種工事を施行し、同三年十月表神保町五番地先より七番地先に於ける同じく電柱移設工事を最終とし五件の工事を

和	昭	計	四	年	二四・六	二四・六	一〇〇

(ロ) 東 電

工事は昭和二年九月錦町三丁目八番地先に於ける電柱移設工事を最初としそれより逐次各種工事を施行し、同三年十月表神保町五番地先より七番地先に於ける同じく電柱移設工事を最終とし五件の工事を全部完了したり、而して之に要したる整理費は千八百三十一圓二十錢なり、其の工事並支拂狀況を示せば左の如し。

工事進捗狀況

年 度	電 柱		其 他		計	歩 合 %
	數 量	金 額	數 量	金 額		
昭 和 二 年	一 本	二九八・三〇	一ヶ所	一	二九八・三〇	一六
昭 和 三 年	六	一、四九・九六	二	四・三	一、五三・九〇	八四
計	七	一、七八八・二六	二	四・三	一、八三三・〇〇	一〇〇

支拂狀況

年 度	國 負 擔		市 負 擔		計	歩 合 %
	數 量	金 額	數 量	金 額		
昭 和 二 年						
昭 和 三 年		四・三		一、七九・九六	一、八三・二六	一〇〇
計		四・三		一、七九・九六	一、八三・二六	一〇〇

第七地區 丙 地下埋設物其他工作物整理

第四 瓦 斯

工事は昭和二年七月表猿樂町二十二番地先に於ける瓦斯管線路切廻工事を最初としそれより逐次各種工事を施行し、翌三年九月南神保町七番地先に於ける同じく瓦斯管線路移設工事を最終とし十六件の工事を全部完了したり、而して之に要したる整理費は二百四十九圓六十六錢なり、其の工事並支拂狀況を示せば左の如し。

工事進捗狀況

年 度	管 線 路		其 の 他		計	歩 合 %
	數 量	金 額	數 量	金 額		
昭 和 二 年	1間	1円	5ヶ所	27円	27円	二
昭 和 三 年	132	89,477	23	13,277	102,754	98
計	133	89,478	28	16,019	105,497	100

支拂狀況

年 度	市 負 擔	歩 合 %
昭 和 三 年	77,917	三
昭 和 四 年	12,366	11
昭 和 五 年	5,905	5
計	96,188	100

第三節 假本整理

本地區に於ける假本整理工事は件數二十九件整理費九千四百三十四圓五十四錢全部市負擔にして、昭和三年九月五日市水道局關係工作物整理に著手したるを最初としそれより逐次各種工事を施行せり、之



第三節 假本整理

本地區に於ける假本整理工事は件數二十九件整理費九千四百三十四圓五十四錢全部市負擔にして、昭和三年九月五日市水道局關係工作物整理に著手したるを最初としそれより逐次各種工事を施行せり、之を事業者別に見るに市水道局二件金額二千五百八十八圓四十八錢、市電氣局十三件金額九百三十八圓五十四錢、東京電燈株式會社十三件金額四千二百二十六圓六十二錢、東京瓦斯株式會社一件金額千七百八十八圓九十錢なり、其の工種別及工事並支拂狀況を示せば左の如し。

工事種別

種別	水道		市電		東電		瓦斯		計
	數量	金額	數量	金額	數量	金額	數量	金額	
交通 障通	電柱	四〇本	三六・九	八〇本	四、二二・七	二〇〇本	四、四七四・六六	三六七・二八	一三・九五
		管線路	二二・三	三六七・八	二ヶ所	三・九	二三・三		
支障	電柱	二、五八八・四	二〇〇・〇	二、五八八・四	二〇〇・〇	二、五八八・四	二、〇四・七	四、五七八・七五	四、四七四・六六
		管線路	六四・七	二、五八八・四	六四・七	二、五八八・四	二〇〇本		
其他	電柱	二、五八八・四	二〇〇・〇	二、五八八・四	二〇〇・〇	二、五八八・四	二、〇四・七	四、五七八・七五	四、四七四・六六
		管線路	六四・七	二、五八八・四	六四・七	二、五八八・四	二〇〇本		
合計	其他	二、五八八・四	二〇〇・〇	二、五八八・四	二〇〇・〇	二、五八八・四	二、〇四・七	九、四三四・四	一三・九五
		管線路	六四・七	二、五八八・四	六四・七	二、五八八・四	二〇〇本		
合計		二、五八八・四	二〇〇・〇	二、五八八・四	二〇〇・〇	二、五八八・四	二、〇四・七	九、四三四・四	一三・九五

第七地區 丙 地下埋設物其他工作物整理

第七地區 丙 地下埋設物其他工作物整理

工事進捗状況

年 度	電 柱		管 線		其 他		計 歩 合 %
	數量	金額	數量	金額	數量	金額	
昭 和 三 年	二四 <sup>本</sup>	一、二四・五二 <sup>円</sup>	二四九 <sup>間</sup>	一、〇七一・〇二 <sup>円</sup>	一 <sup>ヶ所</sup>	一 <sup>円</sup>	二、二八五・五四 <sup>円</sup>
昭 和 四 年	九二	三、二四・三五	八五九	三、六五・五四	—	—	六、九〇七・八九
昭 和 五 年	四	一七・七九	二一〇・〇	二〇九・三七	二	一三・九五	二四一・一一
計	一三〇	四、四四・六六	一、三三八・〇	四、九四三・九三	二	一三・九五	九、四四三・四四
							一〇〇

支拂状況

年 度	市 負 擔		歩 合 %
	金額	歩合	
昭 和 四 年	六、六〇四・九五 <sup>円</sup>	七〇	
昭 和 五 年	一、〇〇三・五三	二九	
未 済	一、八三三・〇七	一九	
計	九、四四一・五四	一〇〇	

第一 水 道

工事は昭和三年九月表神保町二番地先より同町四番地先に至る側溝水道鐵管移設工事と同四年七月表神保町二番地先より錦町三丁目十六番地先に至る水道鐵管移設工事の二件なり、而して之に要たしる整

理費は二千五百八十八圓四十八錢なり、其の工事並支拂状況を示せば左の如し。

工事進捗状況

年 度	管 線		歩 合 %
	數量	金額	

工事は昭和三年九月表神保町二番地先より同町四番地先に至る側溝水道鐵管移設工事と同四年七月表神保町二番地先より錦町三丁目十六番地先に至る水道鐵管移設工事の二件なり、而して之に要たしる整

理費は二千五百八十八圓四十八錢なり、其の工事並支拂狀況を示せば左の如し。

工事進捗狀況

年 度	管 線		歩 合 %
	數 量	金 額	
昭 和 三 年	三三九 <sup>圓</sup>	七六 <sup>圓</sup> ・四	三〇
昭 和 四 年	四五・六	一、八三・〇七	七〇
計	六四・七	二、五八・〇七	一〇〇

支拂狀況

年 度	市 負 擔		歩 合 %
	數 量	金 額	
昭 和 五 年	七六 <sup>圓</sup> ・四	一、八三・〇七	三〇
未 済	一、八三・〇七	二、五八・〇七	七〇
計	二、五八・〇七	二、五八・〇七	一〇〇

第二 電 氣

(イ) 市 電

工事は昭和四年一月錦町三丁目十七番地先に於ける電柱移設工事を最初としそれより逐次各種工事を施行し、同五年十月猿樂町一丁目先に於ける電纜移設工事を最終とし十三件の工事を全部完了せり、而

第七地區 丙 地下埋設物其他工作物整理

第七地區 丙 地下埋設物其他工作物整理

して之に要したる整理費は九百三十八圓五十四錢なり、其の工事並支拂狀況を示せば左の如し。

工事進捗狀況

年 度	電 柱		管 線		計	歩 合 %
	數 量	金 額	數 量	金 額		
昭 和 三 年	四本	一七、四 <sup>円</sup>	一〇、〇 <sup>間</sup>	三〇、四 <sup>円</sup>	四四、〇 <sup>五</sup>	四七
昭 和 四 年	三	一〇、六 <sup>七</sup>	三、三	六、二 <sup>五</sup>	一六、九 <sup>三</sup>	二九
昭 和 五 年	四	一七、九	一〇、〇	一〇、九 <sup>七</sup>	二七、八 <sup>六</sup>	二四
計	四〇	三六、九	一四、三	五七、五	九八、八 <sup>四</sup>	一〇〇

支拂狀況

年 度	市 負 擔	歩 合 %
昭 和 四 年	七二、八 <sup>円</sup>	六
昭 和 五 年	二七、二 <sup>六</sup>	二四
計	九八、八 <sup>四</sup>	一〇〇

(ロ) 東 電

工事は昭和三年十一月表猿樂町二番地先に於ける電柱移設工事を最初としそれより逐次各種工事を施行し、同五年十月猿樂町一丁目五番地先に於ける支線柱移設工事を最終とし十三件の工事を全部完了せ

り、而して之に要したる整理費は四千二百二十六圓六十二錢なり、其の工事並支拂狀況を示せば左の如し。

工事進捗狀況

電 柱	其 他

工事は昭和三年十一月表猿樂町二番地先に於ける電柱移設工事を最初としそれより逐次各種工事を施行し、同五年十月猿樂町一丁目五番地先に於ける支線柱移設工事を最終とし十三件の工事を全部完了せ

り、而して之に要したる整理費は四千二百二十六圓六十二錢なり、其の工事並支拂狀況を示せば左の如し。

工事進捗状況

年 度	電 柱		其 他		計	歩 合 %
	數 量	金 額	數 量	金 額		
昭 和 三 年	二〇本	一、〇七・〇八	—	—	一、〇七・〇八	二六
昭 和 四 年	〇	三、〇五・五九	—	—	三、〇五・五九	七五
昭 和 五 年	—	—	二	一三・九五	一三・九五	一
計	二〇	四、一二・六七	二	一三・九五	四、二六・六二	一〇〇

支拂狀況

年 度	市 負 擔		歩 合 %
	數 量	金 額	
昭 和 四 年	—	四、一二・六七	九
昭 和 五 年	—	一三・九五	一
計	—	四、二六・六二	一〇〇

第三 瓦 斯

本地區に於ける瓦斯工作物の整理工事は表神保町二番地先より錦町三丁目十六番地先に至る區間に於て側溝下水敷に入りたる支障瓦斯管線路四百三十間を移設せるもの一一件に過ぎず、而して昭和四年八

第七地區 丙 地下埋設物其他工作物整理



大正十四年	九	一九〇・五三	一	一	一	一	一	一	一	一	一
-------	---	--------	---	---	---	---	---	---	---	---	---

大正十五年	三〇	五七・六	一	一	一	一	一	一	一	一	一
昭和元年	六五〇	一一、三六・〇七	三	一	二	三	三	三	三	三	三
昭和二年	三、九六	七三、五二・一五	七	一	二	二	二	二	二	二	二
昭和三年	六七三	一一、四七・六	三	一	一	一	一	一	一	一	一
昭和四年	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
昭和五年	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
未済	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
計	五、二九〇	六、七六・七	一〇〇	一、一三八	二、三三七・九	四、一五三	七、四〇二・八	五、二九〇	九、七六・七	一〇	一〇

備考 △印は再設費未支拂(撤去費は支拂済)のもの。

前記の内事業者拂に属するもの五千二百八十一件金額八萬四千五百二十圓四錢にして内國負擔千三百三十八件金額一萬八千七百七十五圓四十四錢、市負擔四千四百三十三件金額六萬六千三百四十四圓六十錢なり、尙現金補償に属するもの(移設費を含む)千百十四件金額一萬三千六百七十九圓九十八錢にして内國負擔二百十九件金額三千三百二圓三十五錢、市負擔九百四十四件金額一萬五千五百六十八圓五十八錢なり、其の負擔狀況を示せば左の如し。

種別	水道		市電		東電		瓦斯		電話		計	
	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額
事業者	三七〇	七、一〇三・五一	六七	七、八二・五六	三三四	二、三四八・六四	三六七	七、九四〇・七三	一	一	一、一三八	一八、一七五・四四
拂	一、三八五	二六、六〇一・四	一八四	二、〇七〇・五六	一、三七五	一、九五四・七七	一、一九九	二四、六九一・一三	一	一	四、一四三	六六、三四四・六〇
市負擔	一、七五五	三三、七〇三・九六	一一一	二、八三三・三三	一、〇〇九	一、五三三・四一	一、五六六	三、三三九・八六	一	一	五、二八二	八四、五〇〇・〇四
計	三、一二五	六四、四〇五・五一	二八八	一〇、七三六・九四	一、三三四	三、八一六・七五	三、九〇三	一〇、九一四・九四	二	二	六、五二四	一〇九、七〇〇・〇八

第七地區 丙 地下埋設物其他工作物整理

第七地區 丙 地下埋設物其他工作物整理

合	現		補		移		計	市	國	計	市	國	計	市	國		
	人		費		設											市	國
	償		費		費												
	再	補	再	補	再	補										再	補
設	償	設	償	設	償	設	償	設	償	設	償	設	償	設	償		
一、七九	一、三五	三〇〇	一	三三六	一八九	二、五六	一八一	二、五八	四、八五	四、八	二九八	二、九五	七	六九三	三九		
三、七九	二、八一	七、七五	一	三、三四〇	七、七五	一、八一	一、九	三、三三〇	一、九七	六、六六	六三	五三三	一	三、二〇	三三		
一、三五	二、八一	七、七五	一	三、三四〇	七、七五	一、八一	一、九	三、三三〇	一、九七	六、六六	六三	五三三	一	三、二〇	三三		
一、七九	一、三五	三〇〇	一	三三六	一八九	二、五六	一八一	二、五八	四、八五	四、八	二九八	二、九五	七	六九三	三九		
三、七九	二、八一	七、七五	一	三、三四〇	七、七五	一、八一	一、九	三、三三〇	一、九七	六、六六	六三	五三三	一	三、二〇	三三		

備考 合計件數欄中には再設費補償件數は含まず。

第一 水道

大正十四年九月五日より工事施行に關する申請書の受付を開始し昭和三年十一月二十三日迄に全部の受付を了せり、工事は大正十四年十一月二十五日之に著手し建物移轉の進捗に伴ひ逐次施行し昭和五年三月三十日を以て全工事を完了したり、其の申請書並整理件數は千七百五十五件金額三萬六千九百七十七圓八十五錢にして、内撤去工事のみを爲し再設工事を爲さざりしもの二百二十六件金額三千二百五十四圓二十錢なり、其の工事並支拂狀況を示せば左の如し。

年	度	工		支		拂		計	
		事	狀	負	擔	負	擔	金	額
		件	金	件	金	件	金	件	金
		數	額	數	額	數	額	數	額
			歩		歩		歩		歩
			合		合		合		合
			%		%		%		%
大正十四年	三	七三	九五	一	一	一	一	一	一

大正十五年	二	二二	八七	一	一	一	一	一	一
昭和二年	二二	四、六六	一九	三	一	一	一	一	一
昭和三年	一、二九	二七、三三	六二	七四	一、九	四、九七	八四	七四	一五、六〇



大正十四年	三	七三・九五	一	件數	金額	件數	金額	件數	金額

大正十五年	昭和二年	昭和三年	昭和四年	昭和五年	未済	計
二	二三	二九	二九	一	一	一、七五
三三・七	四、六九・九	二七、三三・六	四、六三・三			三六、九七・八
一	三	七	三	一	一	一〇〇
		一九	一四	二		三七〇
		四、一七・八	二、九八・四	五九・六〇		七、七五・九〇
			七四	一五	△	一、三三・三
		一五、六〇・三	一一、〇〇・五	二、二一・〇	△	二九、一八・九
			九四	一三	△	一、七五
		一九、八七・五	一四、一八・九	二、八〇・六	△	三六、九七・八
						一〇〇

備考 △印は再設費未支拂(撤去費は支拂済)のもの。

## 第二電 氣

### (イ) 市 電

昭和二年三月七日より工事施行に關する申請書の受付を開始し同四年四月八日迄に全部の受付を了せり、工事は同二年十一月一日之に著手し建物移轉の進捗に伴ひ逐次施行し同四年六月十四日を以て全工事を完了したり、其の申請書並整理件數は二百五十一件金額二千九百三十一圓六十八錢にして、内撤去工事のみを爲し再設工事を爲さざりしもの九件金額七十八圓五十六錢なり、其の工事並支拂狀況を示せば左の如し。

第七地區 丙 地下埋設物其の他工作物整理

年 度	工 事 状 況		支 拂 状 況	
	件 數	金 額	件 數	金 額
昭和二年	二	二六・九 <sup>円</sup>	一	一二・六 <sup>円</sup>
昭和三年	一九	二、三〇・七	一三	一、五〇・四
昭和四年	四	四九・五	四	五〇・三
昭和五年	一		二	四・四
未 済			二	四・四
計	二五	二、九三・六	一八	二、四九・三
			合	三五
			金	二、九三・六
			歩 合 %	一〇〇

備考 △印は再設費未支拂撤去費は支拂濟のもの。

(口) 東 電

大正十四年九月二日より工事施行に關する申請書の受付を開始し昭和三年十二月六日迄に全部の受付を了せり、工事は大正十四年十一月二十五日之に著手し建物移轉の進捗に伴ひ逐次施行し昭和四年六月十九日を以て全工事を完了したり、其の申請書並整理件數は千七百九件金額二萬二千百三十一圓五十五錢にして、内撤去工事のみを爲し再設工事を爲さざりしもの五百十八件金額六千八百二十八圓十四錢なり、其の工事並支拂狀況を示せば左の如し。

年 度	工 事 状 況		支 拂 状 況	
	件 數	金 額	件 數	金 額
	件數	金額	件數	金額
	金額	歩合%	國 負擔	市 負擔
			合 計	
			金額	金額
			歩 合 %	





年 度	工 事 状 況		支 拂 状 況	
	件 數	金 額	件 數	金 額
昭 和 三 年	七	五四二・四〇 <sup>円</sup>	七	五四二・四〇 <sup>円</sup>
昭 和 四 年	二	三・五	二	三・五
計	九	五七六・九	九	五七六・九
		歩 合 %		歩 合 %
		二 三 六		二 三 六

#### 第四章 道路占用

本地区に於ける占用事務は昭和二年三月三十日之を開始し同四年六月三十日閉止の豫定なりしが建物移轉竝道路工事の關係により同年十一月十五日之を閉止せり、而して翌五年二月二十八日迄に臺帳の作成を了し市土木局に引繼を爲せり。

本地区に於ては昭和二年四月十日市水道局、市土木局下水課、市保健局、東京電燈株式會社及東京瓦斯株式會社に對し一括許可又は承認を爲したるを最初とし、それより逐次各事業者に許可又は承認を爲したり、而して右に對する分割許可又は承認は同年五月二十四日東京瓦斯株式會社に許可せるを最初とし、それより逐次各事業者に許可又は承認を爲し、同四年十一月四日東京電燈株式會社に許可せるを最終とし、要求工事四百二件、非要求工事四百三十六件の許可又は承認を爲したり、其の狀況を示せば左の如し。

事業業者	一括占用許可 承認年月日	分割許可		可承認 件數
		最初年月日	最終年月日	
市水道局	昭和二、四、一〇	昭和二、六、二二	昭和四、六、一九	一六
市土木局下水課	昭和二、四、一〇	昭和二、二、二三	昭和四、九、二四	一
市電氣局	昭和二、五、一六	昭和二、六、二五	昭和四、九、二四	二
東京電燈株式會社	昭和二、四、一〇	昭和二、七、四	昭和四、二、四	三
東京瓦斯株式會社	昭和二、四、一〇	昭和二、五、二四	昭和四、八、二六	一
遞信省	—	昭和四、四、一	昭和四、四、一	一
警視廳	昭和二、六、九	昭和三、六、二〇	昭和三、六、二〇	一
計				三三
				一六
				一七
				三三

第一 要求工事

本地區に於ける要求工事は四百二件其の延長七千四百六十六間八九、掘鑿面坪二千九十坪〇二二にして之を事業者別に見るときは水道局百六十二件其の延長二千九百八十間五六、掘鑿面坪八百五十四坪九四二、市電氣局十一件其の延長三百二十一間四、掘鑿面坪百三十坪八三、東京電燈株式會社三十五件其の延長三百五十九間一六、掘鑿面坪百四十六坪二、東京瓦斯株式會社百九十三件其の延長三千三百八十間七七、掘鑿面坪九百五十五坪五五、警視廳一件其の延長五間、掘鑿面坪二坪五なり、尙之を類別すれば大掘鑿七十八件其の延長六千三百六十二間八六、掘鑿面坪千九百坪三五、小掘鑿三百二十四件其の延長六百八十四間〇三、掘鑿面坪百八十九坪六七二なり、其の事業者別許可又は承認狀況を示せば左の如し。

年度	大掘鑿		小掘鑿		計
	件數	延長	件數	延長	
市水道局	一	六六・〇〇〇 <small>間</small>	三	四・五〇〇 <small>間</small>	三
		一九・八〇〇 <small>坪</small>		二・九九七 <small>坪</small>	一七・五〇〇 <small>間</small>
					三・七九七 <small>坪</small>

大掘鑿七十八件其の延長六千三百六十二間八六、掘鑿面坪千九百坪三五、小掘鑿三百二十四件其の延長六百八十四間〇三、掘鑿面坪百八十九坪六七二なり、其の事業者別許可又は承認状況を示せば左の如し。

年	度	大掘鑿		小掘鑿		計			
		件數	延長	掘鑿面坪	件數	延長	掘鑿面坪		
昭和二年	市水道局	一	六六・〇〇〇	一九	四一・五〇〇	二〇	一〇七・五〇〇	三・七九七	
		一	一一四・一三〇	三五・六八〇	一	一	一一四・一三〇	三五・六八〇	
	市電氣局	二	二二・六二〇	二・九〇〇	一	一	二二・六二〇	二・九〇〇	
		三	一〇一・〇〇〇	三五・五〇〇	一九	三三・六〇〇	一三三・六〇〇	四三・三五〇	
	東京瓦斯株式會社	二	一〇・〇〇〇	一・九〇〇	一	一	一〇・〇〇〇	一・九〇〇	
		七	三〇三・七四〇	一〇二・八八〇	四	七四・一七〇	三七八・九一〇	一二四・七二七	
	計	七	三〇三・七四〇	一〇二・八八〇	四	七四・一七〇	三七八・九一〇	一二四・七二七	
		九	二、四八六・四〇〇	七五・九一〇	二一	三、四一六・六〇〇	一〇、二八三・〇六〇	八〇九・七九六	
	昭和三年	市水道局	一〇	二〇七・二七〇	九五・一五〇	一	一	二〇七・二七〇	九五・一五〇
			一	二二・八九〇	七四・〇〇〇	一	一	二二・八九〇	七四・〇〇〇
市電氣局		一	二二・八九〇	七四・〇〇〇	一	一	二二・八九〇	七四・〇〇〇	
		一	一、五七〇・五〇〇	四八〇・六〇〇	一八	三二・八九〇	一、九〇二・二〇〇	四八五・二〇〇	
東京瓦斯株式會社		一	五・〇〇〇	二・五〇〇	一	一	五・〇〇〇	二・五〇〇	
		五	四、四七二・一五〇	一、三三三・六三〇	二四	五、六三三・三〇〇	一、五〇一・三六〇	一、四六六・六四六	
計		五	四、四七二・一五〇	一、三三三・六三〇	二四	五、六三三・三〇〇	一、五〇一・三六〇	一、四六六・六四六	
		一	一、五七〇・五〇〇	四八〇・六〇〇	一八	三二・八九〇	一、九〇二・二〇〇	四八五・二〇〇	
昭和四年		市水道局	一	一	一	二	二	一	一
			一	二四・五七〇	六〇・三〇〇	一	一	二四・五七〇	六〇・三〇〇
	東京電燈株式會社	四	一、四三三・四〇〇	四二・三五〇	五	一一・五〇〇	九一、四六四・九〇〇	四五・〇〇〇	
		一	一、五七二・九七〇	四八・八五〇	三	五三・〇〇〇	一六・七九〇	四九・八六九	
	東京瓦斯株式會社	一	一	一	一	一	一	一	
		一〇	二、五五二・四〇〇	七五・七二〇	一五	四、二八一・六〇〇	一〇九・三三二	八五四・九四二	
	計	一〇	二、五五二・四〇〇	七五・七二〇	一五	四、二八一・六〇〇	一〇九・三三二	八五四・九四二	
		一	一	一	一	一	一	一	

第七地區 丙 地下埋設物其他工作物整理

合計		市電氣局	東京電燈株式會社	東京瓦斯株式會社	警視廳
件數	二	二	三	一	六
金額	三三・四〇〇	三三・四〇〇	三五九・一六〇	三、二四・九〇〇	六、三三・八六〇
歩合%	一三〇・八三〇	一四六・二〇〇	一四七・二〇〇	八七五・二一〇	一、九〇〇・三三〇
支拂未済	—	—	—	—	—
合計	二	二	三	一	六
金額	三三・四〇〇	三三・四〇〇	三五九・一六〇	三、二四・九〇〇	六、三三・八六〇
歩合%	一三〇・八三〇	一四六・二〇〇	一四七・二〇〇	八七五・二一〇	一、九〇〇・三三〇

要求工事四百二件の内道路後修を要したるもの二百六十三件金額四千三百一圓二十八錢ありたり、其の支拂狀況を示せば左の如し。

事業者	昭和三年度		昭和四年度		昭和五年度		支拂未済		計
	件數	金額	件數	金額	件數	金額	件數	金額	
市水道局	三	一四二・六	二六	一、〇七九・五	—	—	—	—	二、〇二五・九
市電氣局	—	—	—	三三・五〇	—	—	—	—	三三・五〇
東京電燈株式會社	—	—	一〇	一七三・〇五	—	—	—	—	一七三・〇五
東京瓦斯株式會社	六	六九八・〇元	九	一、三〇・八二	—	—	—	—	二、〇〇六・八二
計	九	八四〇・七	三六	二、六〇七・〇一	—	—	—	—	四、〇一四・七二

第二 非要求工事

本地區に於ける非要求工事は四百三十六件其の延長五千一百一四間四九、掘鑿面坪二千二百六坪三五四に

して、之を事業者別に見るときは市水道局百六十三件其の延長千五十六間二、掘鑿面坪三百五十三坪〇七六、市土木局下水課七件其の延長六百六十三間一八、掘鑿面坪六百八十二坪四、市電氣局四十件其の延長九百六十九間三六、掘鑿面坪二百八十坪五八五、東京電燈株式會社五十一件其の延長八百八十三間



第二 非要求工事

本地區に於ける非要求工事は四百三十六件其の延長五千百一間四九、掘鑿面坪二千二百六坪三五四に

して、之を事業者別に見るときは市水道局百六十三件其の延長千五十六間二、掘鑿面坪三百五十三坪〇七六、市土木局下水課七件其の延長六百六十三間一八、掘鑿面坪六百八十二坪四、市電氣局四十件其の延長九百六十九間三六、掘鑿面坪二百八十坪五八五、東京電燈株式會社五十一件其の延長八百八十三間二九、掘鑿面坪三百十二坪一四、東京瓦斯株式會社百七十四件其の延長千五百二間三四、掘鑿面坪五百六十九坪二〇三、遞信省一件其の延長二十七間一二、掘鑿面坪八坪九五なり、尙之を類別すれば大掘鑿八十五件其の延長四千四百六十九間四四、掘鑿面坪二千十二坪三三、小掘鑿三百五十一件其の延長六百三十二間〇五、掘鑿面坪百九十四坪〇二四なり、其の事業者別許可又は承認狀況を示せば左の如し。

年	度	大掘鑿			小掘鑿			計	
		件數	延長	掘鑿面坪	件數	延長	掘鑿面坪	延長	掘鑿面坪
昭和二年	市水道局	一	間	一	九	三・五〇〇	七・九八七	三・五〇〇	七・九八七
	市土木局下水課	二	四二・三〇〇	四四・二〇〇	一	一	一	四二・三〇〇	四四・二〇〇
	市電氣局	一	一・〇〇〇	〇・五〇〇	一	一	一	一・〇〇〇	〇・五〇〇
	東京電燈株式會社	一	五・三〇〇	二・八〇〇	一四	一三・〇〇〇	五・六〇〇	一八・三〇〇	八・四〇〇
昭和二年	東京瓦斯株式會社	一	一	一	二	一	一	一	一
	計	四	四七・四〇〇	四七・五〇〇	三	六・六七〇	三〇・五七七	五二・二〇〇	四九・〇六七
	市水道局	一	四五・〇〇〇	一三・五〇〇	三	一四・〇〇〇	三五・二七九	一九・〇〇〇	四八・七一九
	市土木局下水課	二	一九七・六〇〇	一九・五〇〇	一	一	一	一九七・六〇〇	一九・五〇〇
昭和三年	市電氣局	三	七七・〇〇〇	一八・三五〇	二	一六・二二〇	一〇・四二五	七三・一四〇	一九・七六五
	計	三	七七・〇〇〇	一八・三五〇	二	一六・二二〇	一〇・四二五	七三・一四〇	一九・七六五

第七地區 丙 地下埋設物其他工作物整理

昭和四年		計		昭和四年		計	
市	市	市	市	市	市	市	市
水道局	土木局	水道局	土木局	水道局	土木局	水道局	土木局
電氣局	電氣局	電氣局	電氣局	電氣局	電氣局	電氣局	電氣局
東京電燈株式會社	東京瓦斯株式會社	東京電燈株式會社	東京瓦斯株式會社	東京電燈株式會社	東京瓦斯株式會社	東京電燈株式會社	東京瓦斯株式會社
二	七	五	三	二	四	一	一
二三四・〇一〇	九〇五・五〇〇	七三三・七〇〇	五〇六・八〇〇	六五五・九六〇	二九九・五〇〇	二七・二〇〇	二七・二〇〇
六・二〇〇	三六三・一五〇	二五九・四六〇	二六・六四〇	二七二・九六〇	二二・七五〇	八・九五〇	八・九五〇
四	六	七	一	一	六	—	—
五・〇〇〇	二一・六七〇	一三三・〇〇〇	—	二六・六〇〇	一三三・五〇〇	—	—
二・六〇〇	三六・七三〇	八五・〇三〇	—	六・四三三	四〇・五九三	—	—
二五	七五	六	三	七	七	一	一
二二九・〇一〇	七五二・〇七二	八四五・七〇〇	五〇四・六八〇	二七二・二二六	四三三・〇〇〇	二七・二〇〇	二七・二〇〇
七〇・八〇〇	三九・八八〇	二九六・三三〇	二六・六四〇	八〇・二二六	一六三・〇五六	—	—
七〇・八〇〇	三九・八八〇	二九六・三三〇	二六・六四〇	八〇・二二六	一六三・〇五六	—	—
七〇・八〇〇	三九・八八〇	二九六・三三〇	二六・六四〇	八〇・二二六	一六三・〇五六	—	—
二二・二〇〇	一〇・九五〇	—	—	—	—	—	—
二二・二〇〇	一〇・九五〇	—	—	—	—	—	—
二二・二〇〇	一〇・九五〇	—	—	—	—	—	—
二二・二〇〇	一〇・九五〇	—	—	—	—	—	—
二二・二〇〇	一〇・九五〇	—	—	—	—	—	—
二二・二〇〇	一〇・九五〇	—	—	—	—	—	—
二二・二〇〇	一〇・九五〇	—	—	—	—	—	—

第三 道路臺帳

道路臺帳は昭和五年二月二十八日之作成を了し市土木局に引繼を爲したり、其の臺帳記入工作物は電柱四百六本、管線路一萬三千九百四十二間六八にして之を類別すれば新設せるもの電柱二百七十三本、管線路七千八百四十一間七五、撤去せるもの電柱百三十三本、管線路二千六百九十四間八三、埋設を爲

第三 道路臺帳

道路臺帳は昭和五年二月二十八日之が作成を了し市土木局に引繼を爲したり、其の臺帳記入工作物は電柱四百六本、管線路一萬三千九百四十二間六八にして之を類別すれば新設せるもの電柱二百七十三本、管線路七千八百四十一間七五、撤去せるもの電柱百三十三本、管線路二千六百九十四間八三、埋殺を爲したるもの三千四百六間一なり、其の事業別數量を示せば左の如し。

種別	新設				撤去				埋殺				計
	間	本	間	本	間	本	間	本	間	本	間	本	
水道	二、五六・七〇〇		七四・四〇〇		三八・〇〇〇								三、六九・一〇〇
市電	六三・一八〇	三本		三本									六三・一八〇
市電	一四〇	一本	一〇三	一本									三三
市電	六七・五〇〇	間	六一五・〇〇〇	間	三五〇〇	間							一、二九六・〇五〇
市電	七七・六三〇	間	一五・二〇〇	間	九二・七三〇	間							九二・七三〇
市電	一七・二二〇	間			一七・二二〇	間							一七・二二〇
市電	三、一九・六〇〇	間	一、〇〇・三〇〇	間	三、〇四・六〇〇	間							七、三四・五〇〇
市電	二七	本	二	本									二五
管線	七、八四一・七五〇	間	二、六四・八三〇	間	三、四六・二〇〇	間							一三、九四三・六八〇
計													

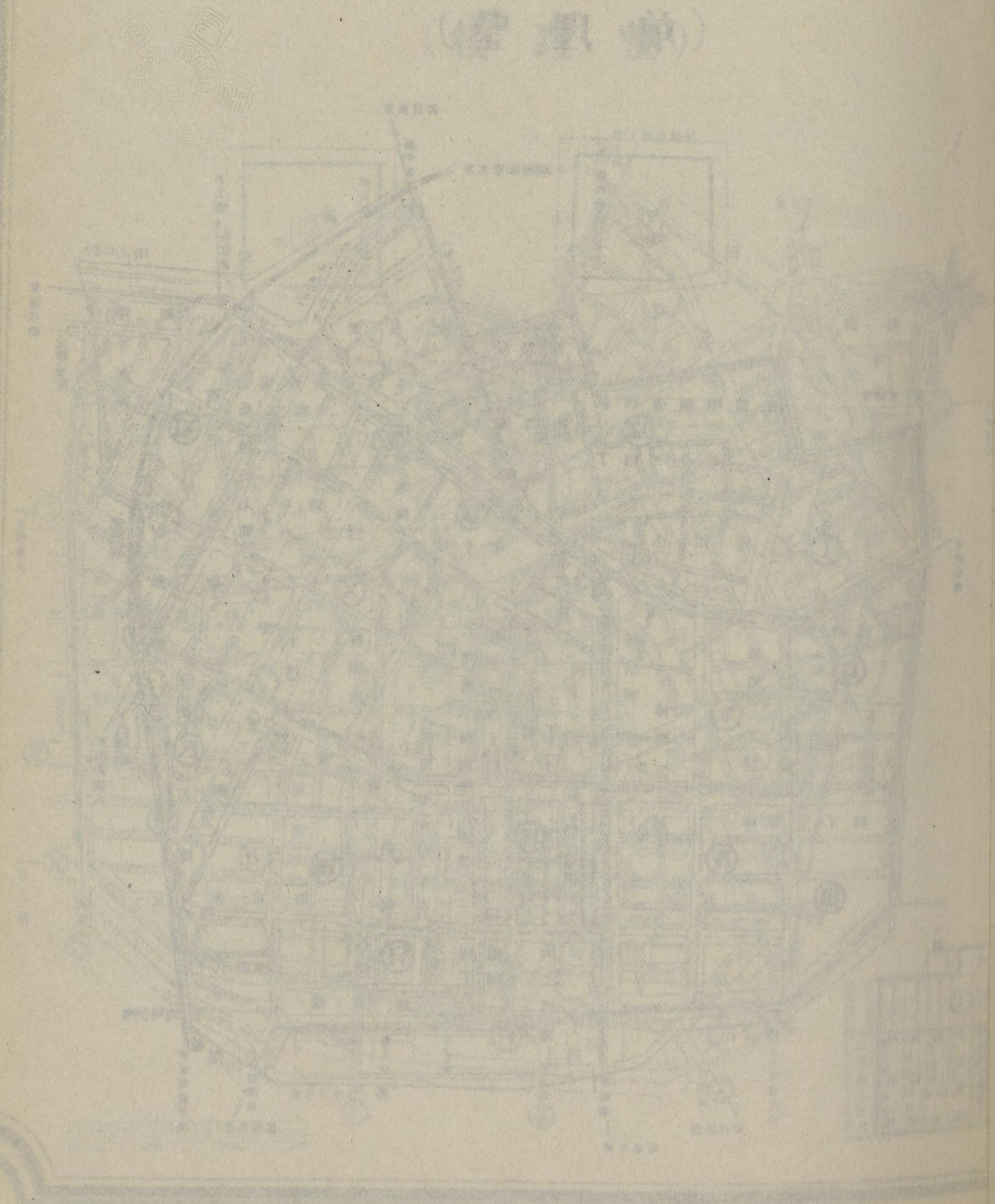


第八地區

樂人紙圖

漢人圖說

(卷之二)

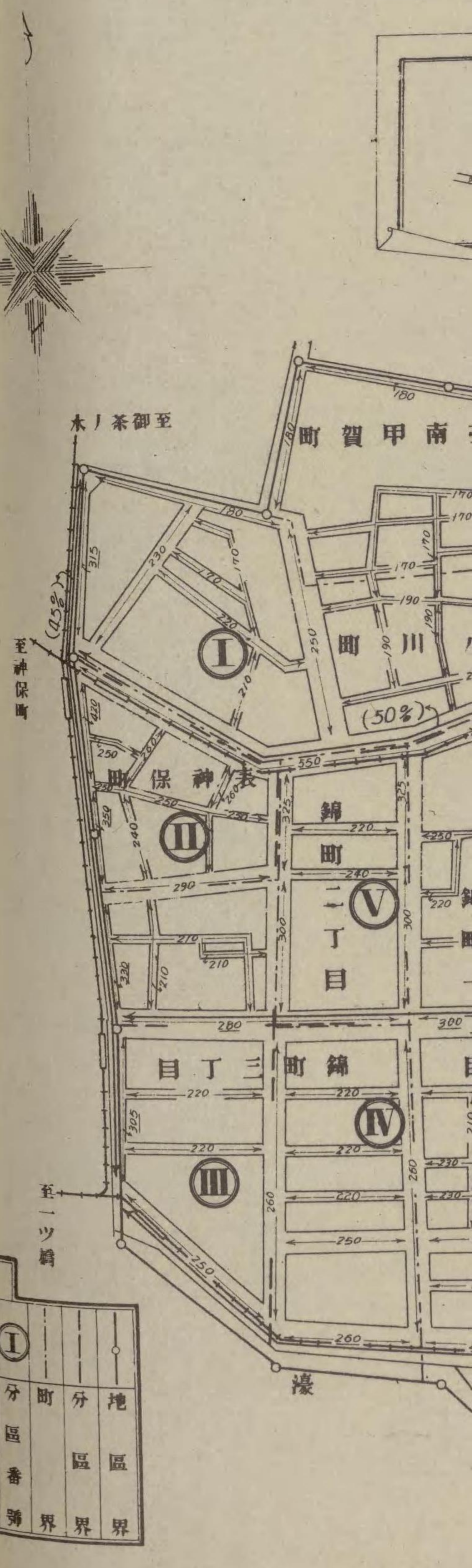






# 地圖概後前理整區地

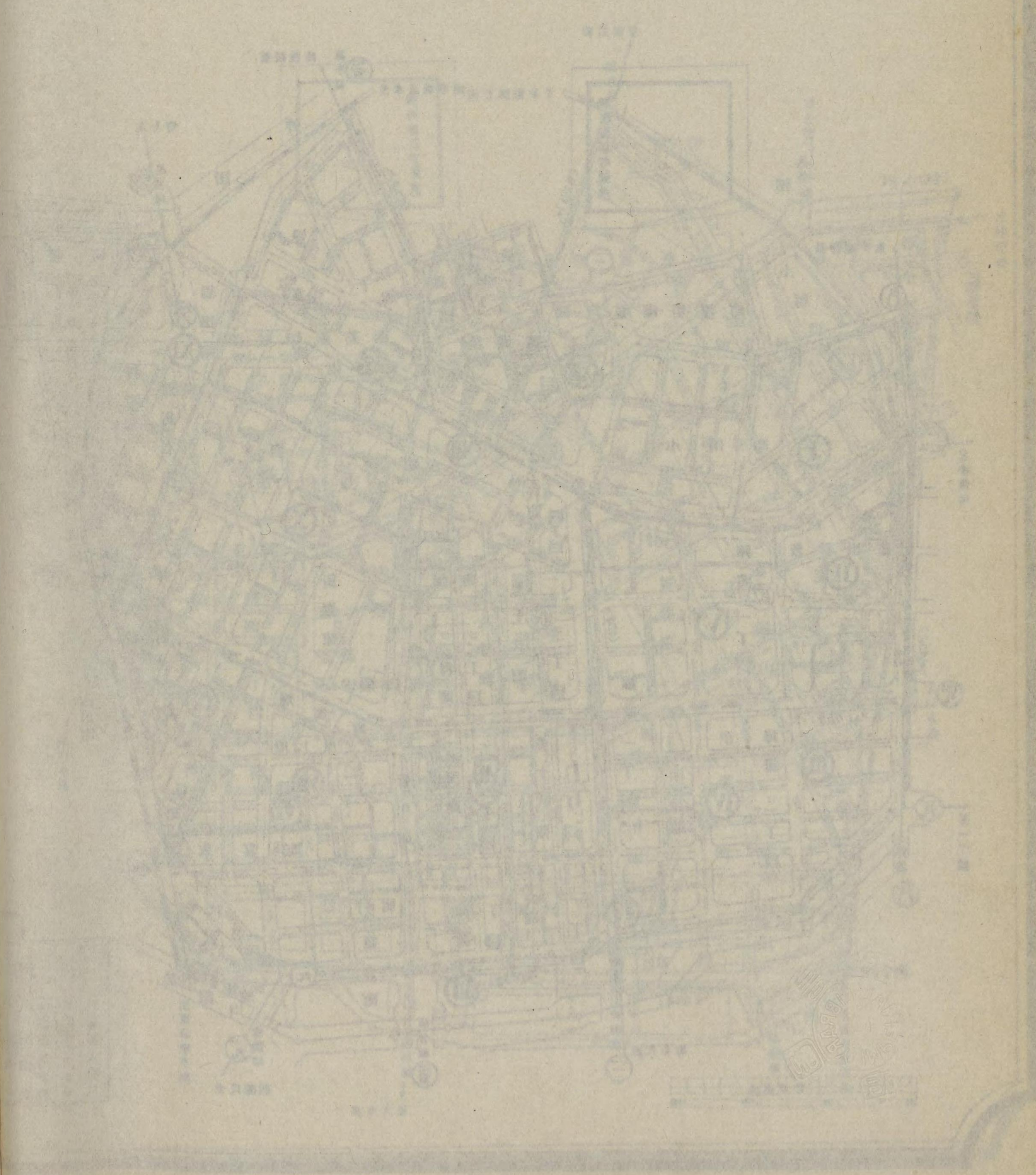
(後理整)



例		凡	
⑧	補助線街路番號	①	分區番號
②	幹線街路番號	②	分區界
③	乙率適用路指	③	地區界
④	甲率適用路指	④	地區界
⑤	圖示以外其他全部	⑤	地區界
⑥	追加編入區域	⑥	地區界

第八圖 馬路

(總圖附錄)



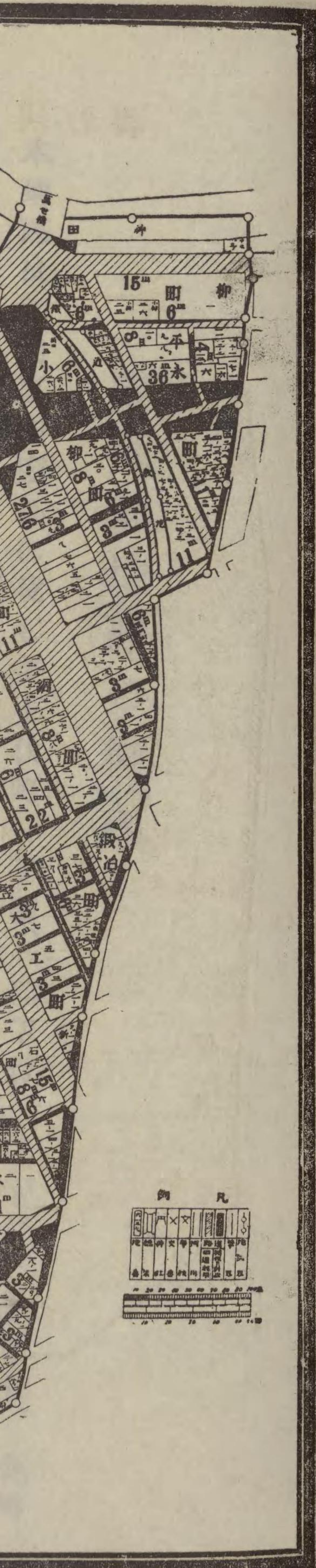
續八旗通志圖



續八旗通志圖



第八地區劃整現形圖

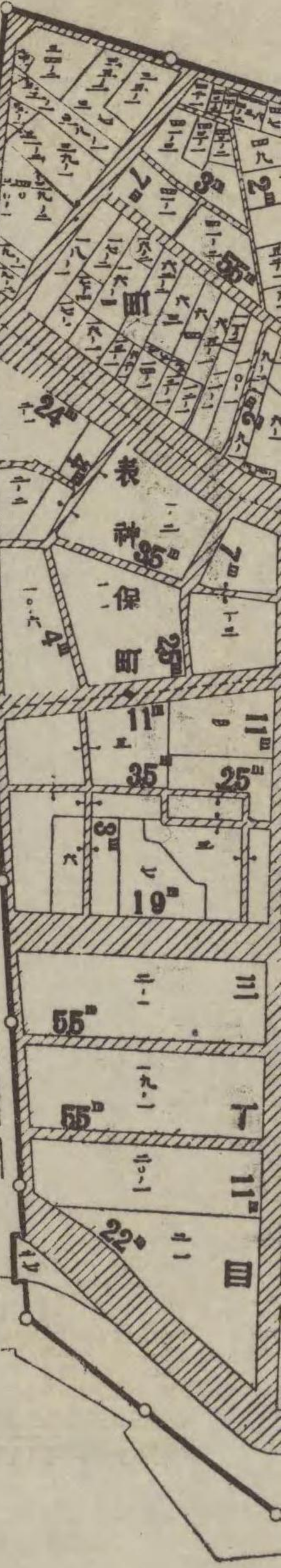




第



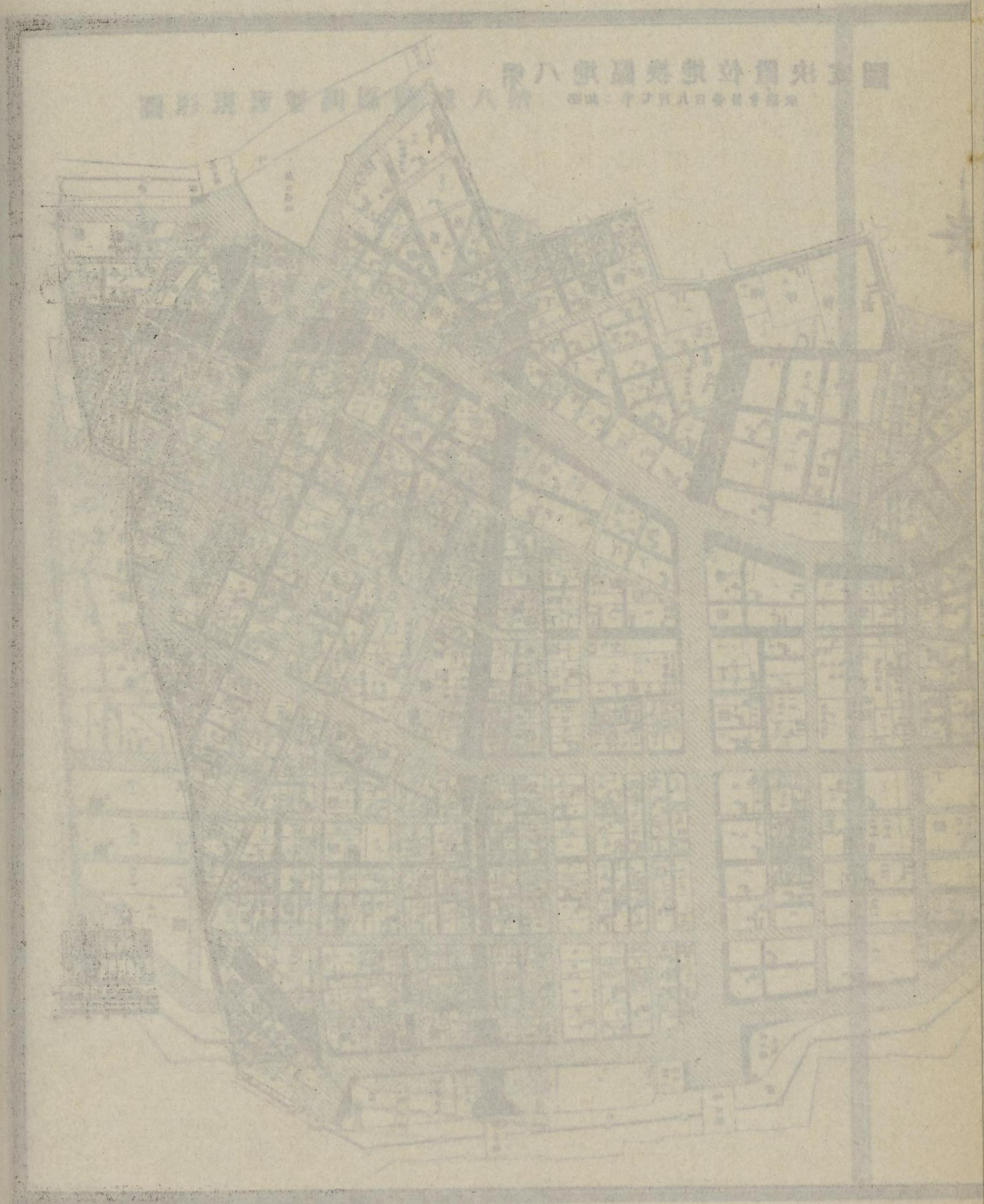
圖形



第八地區換地位置決定圖

昭和二年七月九日委員會議決





### 整理前地区の概況

本地区は神田区の南部に位し美土代町一丁目、二丁目、三丁目、四丁目、錦町一丁目、





### 整理前地区の概況

本地區は神田區の南部に位し美土代町一丁目、二丁目、三丁目、四丁目、錦町一丁目、二丁目、三丁目の一部、表神保町の一部、小川町の一部、淡路町一丁目、二丁目の一部、駿河臺南甲賀町の一部、三河町一丁目、二丁目、三丁目、四丁目、雉子町、新銀町、關口町、皆川町、松下町、鎌倉町、鎌倉河岸、佐柄木町、蠟燭町、旭町、永富町、千代田町の一部、西今川町の一部、新石町の一部、上白壁町の一部、堅大工町、鍛冶町の一部、黒門町の一部、鍋町、多町一丁目、二丁目、通新石町、須田町、小柳町、連雀町、平永町の一部、柳町の一部、柳原河岸の一部及駿河臺袋町の一部を包括す、東は省線高架線路を隔て、第九地區に對し、西は錦町河岸より御茶ノ水に通ずる電車線路を以て第七地區に接し、南は外濠を以て第三地區に、又一部龍閑川を以て第十一地區に界し、北は東の一部神田川を隔て、第三十地區及地區外の佐久間河岸に臨み、其の他は淡路町二丁目の一部及駿河臺南甲賀町の一部を横斷する道路を以て第六地區に隣接す、而して地區内に存する萬世橋驛及其の鐵道用地は之を除斥したり、地勢は概ね平坦なれども小川町、駿河臺南甲賀町及淡路町一丁目、二丁目の一部は所謂駿河臺の東南脚部に連り多少傾斜を成す、本地區の總面積は二十三萬千七百六十七坪九合九勺にして之に所在する建物の總棟數は六千二百二十棟なり。

而して本地區は東部一帯省線に接し且電車軌道地區内を縦横に貫通せるを以て交通至便の地なり、即ち省線は東側地區界に沿ひ南寄りに神田驛、北寄りに萬世橋驛あり、電車軌道は九段方面より須田町を経て昌平橋方面に至るもの、神田橋より小川町に至るもの、今川橋方面より須田町を経て昌平橋方面に至るもの、龍閑橋より外濠に沿ひ西走し市電錦町河岸停留場に於て右折し西側地區界を繞るもの、四線あり、又外濠は南側を繞りて舟運の便多し、斯の如く四通八達の地利を占むるが爲商舖連檐して殷賑を極め神田區の中樞を爲し、就中須田町附近最も繁榮なり、錦町一丁目には東京殖民貿易學校、錦町二丁目には中央大學、東京商業學校、錦町三丁目には錦城中學校、正則英語學校、國民英學會、美土代町二丁目には大原簿記學校、南甲賀町には東京商工學校等各種の學校多く、又美土代町三丁目には東京基督教青年會館、錦町一丁目には天理教會、錦町二丁目には神田區役所、錦町警察署、錦町三丁目には東京瓦斯株式會社、連雀町には神田郵便局、新銀町には神田電話局、東京市神田尋常小學校、小川町には東京市小川尋常小學校、鎌倉河岸には東京市新龍尋常小學校及市水道局出張所あり、其の他各種の商店櫛比し旅館、下宿、製本印刷業者等介在す、又多町二丁目、佐柄木町の一部には神田青物市場秋葉原に移轉計畫あり、柳町は通稱柳原河岸と稱し古着商檐を連ね共に雜鬧の地なり。

## 甲 整 地

葉原に移轉計畫ありあり、柳町は通稱柳原河岸と稱し古着商櫓を連ね共に雜鬧の地なり。

# 甲 整 地

## 第一章 土地區劃整理委員會

### 第一節 委 員

#### 第一 土地區劃整理委員及同補闕委員の選舉

第八地區土地區劃整理委員並同補闕委員の定數は各二十二人にして、其の選舉を大正十三年八月十九日神田區役所に於て執行したるに何れも左記の適當選せり。

#### 一 土地區劃整理委員

##### 土地所有者の部

鳥山 周助

村木 喜助

鈴木友三郎

##### 借地權者の部

大宮徳太郎

石田常太郎

關根 虎藏

宇佐美由次郎

岩倉與三兵衛

清田 政

峰島合資會社

株式會社博進社

峯村陸之助

島 連太郎

三須安五郎

泉 清吉

秋草愛一

小林金四郎

伊藤藤治

福田又一

酒井鉄太郎

今城禎太郎

燧 信治

#### 二 同上補闕委員

##### 土地所有者の部

第八地區 甲 整地

宮 本 仲 岡野富之助

蛭田幸三郎

岡田久太郎

大久保權藏

澤田武夫

熊澤熊吉

大瀧兼吉

青山金四郎

石山和吉

藤木林藏

借地権者の部

相原龜吉

植松勝次郎

伊東龜太郎

初谷藤兵衛

毛塚治兵衛

平田竹次郎

山田壽二

崎山熊楠

大里佐吉

伊澤弘芳

石川喜一郎

### 第二 議長並副議長の選舉及其の異動

大正十三年九月五日東京市區劃整理局に招集したる第一回土地區劃整理委員會に於て、假議長三須安五郎、議長並副議長選舉の方法を諮りたるに、今城禎太郎及福田又一に推薦を委任するに決したるを以て、左の如く議長及副議長を推薦したり。

議長 秋草愛一

副議長 鳥山周助

副議長鳥山周助昭和四年十一月十二日辭任したるに因り、同年十二月二十六日議長秋草愛一、副議長選舉の方法を諮りたるに議長指名に決したるを以て、議長は福田又一に其の推薦を委任し、左の如く副議長を推薦したり。

副議長 清田政

### 第三 土地區劃整理委員の異動

土地區劃整理委員は換地處分の結了に至るまで左の如く異動したり。

- 一 土地所有者選出委員岩倉與三兵衛大正十三年十二月二日死亡したるに因り、同月十二日同補闕委員宮本仲補充せらる。

- 二 土地所有者選出委員島連太郎昭和三年三月二十八日辭任したるに因り、同年四月二日同補闕委員岡野富之助補充せらる。

- 三 土地所有者選出委員鳥山周助昭和四年十一月十二日辭任したるに因り、同月二十一日同補闕委員

### 第三 土地區劃整理委員の異動

土地區劃整理委員は換地處分の結了に至るまで左の如く異動したり。

- 一 土地所有者選出委員岩倉與三兵衛大正十三年十二月二日死亡したるに因り、同月十二日同補闕委員宮本仲補充せらる。

- 二 土地所有者選出委員島連太郎昭和三年三月二十八日辭任したるに因り、同年四月二日同補闕委員岡野富之助補充せらる。

- 三 土地所有者選出委員鳥山周助昭和四年十一月十二日辭任したるに因り、同月二十一日同補闕委員岡田久太郎補充せらる。

#### 第二節 諮問及答申

##### 一 諮問第一號 整理前土地面積決定期日に關する件

土地區劃整理換地配當の標準たる従前の土地面積は大正十四年六月三十日現在の土地臺帳面積に依らむとす、但し六月二十日限東京市役所へ出願したるものにして訂正を受けたるときは其の面積に依るものとする。

備考 土地面積訂正を東京市役所に出願せむとするものは、該願書に實測圖を添付し隣地主の同意を得て市役所より調査の際は隣地主の立會を要す、但し臺帳面積との差百分の一以下は之を訂正せず。

右大正十四年五月十二日諮問

同日修正決議の上答申

#### 議事要綱

本件は慎重審議の結果土地臺帳面積決定期日を大正十四年七月三十一日に、面積誤謬訂正出願期日を大正十四年七月二十日に修正決議せり。

##### 二 諮問第二號 換地位置決定に關する件 (地區全部)

大正十四年五月十二日諮問

第八地區 甲 整地

委員會二十一回 協議會二十一回開催

大正十五年十二月三日より昭和二年七月九日迄十六回に修正決議の上其の都度答申

議事要綱

本案は諮問第四號乃至第十八號及第二十二號換地面積決定案と共に審議を爲したるも、此間町民に於て區劃整理の根本につき異議を稱ふるものあり、特に區劃整理制度改善期成同盟會なるものを組織して策動せるが爲各般の議論沸騰し、土地區劃整理委員會の審議に反映して施行上支障多く、且委員會に於ても本地區の減歩率約一割六分なるを以て土地を買收して一割二分内外に低下すべしと主張し、又幹線擴張につき各種の意見續出するありて紛糾せるも、漸次買收の進捗と區劃整理事業の諒解と相俟つて昭和三年七月に至り之が決定を見るを得たり、尙本地區に於ては前記の如く地區民の本事業に關心すること大なりしを以て、委員會には特に補闕委員をも出席せしめ、當局に對し質問し又は意見を述べしむることとし、事業の理解と圓滿なる進捗に努めたり。

三 諮問第三號 整理前路線價指數並各筆平均坪當指數に關する件 (地區全部)

大正十四年十二月十八日諮問

委員會五回 協議會五回開催

大正十五年十二月十三日假決議

昭和四年十二月二十六日撤回

議事要綱

本案は數回の委員會に於て慎重協議の結果修正假決議する處ありしも、昭和四年十二月二十六日諮問第三十七號土地各筆清算に關する件を提案するに當り、之が内容を爲すものとして當局は原案を撤

回せり。

四 諮問第四號 一部換地面積決定に關する件

(通新石町、小柳町、鍋町各一部及黒門町)

大正十五年二月二日諮問

委員會八回 協議會八回開催

本案は數回の委員會に於て慎重協議の結果修正假決議する處ありしも、昭和四年十二月二十六日諮問第三十七號土地各筆清算に關する件を提案するに當り、之が内容を爲すものとして當局は原案を撤

回せり。

四 諮問第四號 一部換地面積決定に關する件

(通新石町、小柳町、鍋町の各一部及黒門町)

大正十五年二月二日諮問

委員會八回 協議會八回開催

大正十五年十二月三日修正決議の上答申

五 諮問第五號 一部換地面積決定に關する件

(鎌倉町及美土代町一丁目の各一部)

大正十五年三月九日諮問

委員會三回 協議會三回開催

大正十五年五月二十五日修正決議の上答申

六 諮問第六號 一部換地面積決定に關する件

(須田町、平永町、小柳町、美土代町一丁目、同二丁目、千代田町の各一部、柳原河岸、柳町及西今川町)

大正十五年九月二十八日諮問

委員會十八回 協議會十八回開催

昭和二年五月二十三日修正決議の上答申

七 諮問第七號 一部換地面積決定に關する件

(錦町三丁目の一部)

大正十五年十一月五日諮問

委員會二回 協議會二回開催

大正十五年十二月三日原案可決の上答申

八 諮問第八號 一部換地面積決定に關する件

(錦町一丁目、同三丁目、佐柄木町、連雀町の各一部、淡路町一丁目、同二丁目及永富町)

大正十五年十二月三日諮問

委員會十四回 協議會十四回開催

昭和二年五月二十三日修正決議の上答申

議事要綱

本案中錦町一丁目及同三丁目の各一部に關しては、錦町一丁目に於て幹線第二號の擴張並新設區劃整理街路の爲め減歩率多きにも拘らず、買收すべき土地なく換地設計上困難なるを以て、同町三番富士生命保險會社所有地更正面積六百六十四坪五合三勺を、土地所有者諒解の下に連雀町萬世橋驛前の街路縮小に依り減歩少なきブロック内遞信省用地に跨り、面積五百八十五坪一合三勺の飛換地を交付し、尙錦町三丁目一番ノ三安田保善社所有在郷軍人會神田分會借地七十一坪一勺を同様前記富士生命保險會社換地の一隅十五米の街路に面し、面積六十二坪四合の換地を交付する事とし、委員會に於て審議の結果決議を了せり(本案は更に後日紛糾を生ぜり諮問第二十九號参照)而して本案決定後錦町一丁目に於ける富士生命保險會社從前の土地を移轉促進上直に他の換地に使用せむとしたるも、同社換地の一部遞信省用地に跨り使用不可能なるが爲止むを得ず事業促進上、本市に於て從前の位置に於ける會社用地を一時借入使用する事とせり。

九 諮問第九號 一部換地面積決定に關する件

(小川町、駿河臺南甲賀町、新銀町、表神保町及新石町の各一部)

大正十五年十二月三日諮問

委員會四回 協議會四回開催

昭和二年二月五日修正決議の上答申

一〇 諮問第十號 一部換地面積決定に關する件

(通新石町、堅大工町、新石町、美土代町一丁目、同二丁目、多町一丁目、新銀町、錦町一丁目、皆川町、松下町及三河町

二丁目の各一部)

昭和元年十二月二十七日諮問

委員會十三回 協議會十三回開催

昭和二年六月二十九日修正決議の上答申

一 諮問第十一號

一部換地面積決定に關する件

(小柳町、須田町、鍋町、佐柄木町、旭町、巖)



昭和二年二月五日修正決議の上答申  
一〇 諮問第十號 一部換地面積決定に關する件  
（通新石町、堅大工町、新石町、美土代町一丁目、同二丁目、  
多町一丁目、新銀町、錦町一丁目、皆川町、松下町及三河町  
各一部）  
（二丁目の各一部）

昭和元年十二月二十七日諮問  
委員會十三回 協議會十三回開催

昭和二年六月二十九日修正決議の上答申  
一一 諮問第十一號 一部換地面積決定に關する件  
（小柳町、須田町、鍋町、佐柄木町、旭町、蠟燭町、松下町、千代田町及鎌倉町の各一部）

昭和二年一月二十六日諮問  
委員會十回 協議會十回開催  
昭和二年五月十日修正決議の上答申

一二 諮問第十二號 一部換地面積決定に關する件  
（美土代町三丁目、同四丁目及錦町一丁目の各一部）  
昭和二年二月五日諮問  
委員會十一回 協議會十一回開催

昭和二年六月六日修正決議の上答申  
一三 諮問第十三號 一部換地面積決定に關する件  
（多町一丁目、同二丁目、通新石町及旭町の各一部）  
昭和二年二月二十一日諮問  
委員會十回 協議會十回開催

昭和二年六月六日修正決議の上答申  
一四 諮問第十四號 一部換地位置變更並面積決定に關する件  
（美土代町一丁目、千代田町、表神保町、旭町及鎌倉町の各一部）  
昭和二年二月二十八日諮問  
委員會七回 協議會七回開催

昭和二年五月十日修正決議の上答申

一五 諮問第十五號 一部換地位置變更竝面積決定に關する件

(三河町一丁目、同三丁目、同四丁目、鎌倉町及松下町の各一部)

昭和二年三月十二日諮問

委員會六回 協議會六回開催

昭和二年五月十日修正決議の上答申

一六 諮問第十六號 一部換地位置變更竝面積決定に關する件

(連雀町、須田町、蠟燭町、鎌倉町、雄子町、錦町一目丁の各一部、銀冶町、旭町、

松下町及三河町二丁目)

昭和二年三月二十五日諮問

委員會九回 協議會九回開催

昭和二年七月九日修正決議の上答申

一七 諮問第十七號 一部換地位置變更竝面積決定に關する件

(多町二丁目、新銀町、連雀町、雄子町、美土代町三丁目、佐柄木町、鍋町、蠟燭町、

皆川町、三河町二丁目及千代田町の各一部)

昭和二年三月三十日諮問

委員會八回 協議會八回開催

昭和二年七月九日修正決議の上答申

一八 諮問第十八號 一部換地位置變更竝面積決定に關する件

(小柳町、平永町、銀冶町、千代田町、美土代町一丁目、關口町、上白壁町、新銀

町及堅大工町の各一部)

昭和二年四月十二日諮問

委員會七回 協議會七回開催

昭和二年九月九日修正決議の上答申

一九 諮問第十九號 一部換地位置竝面積變更に關する件

(淡路町一丁目、駿河臺南甲賀町及永富町の各一部)

一八 諮問第十八號 一部換地位置變更竝面積決定に関する件 (小柳町、平永町、鍛冶町、千代田町、美土代町一丁目、關口町、上白壁町、新銀

町及堅大工町の各一部)

昭和二年四月十二日諮問

委員會七回 協議會七回開催

昭和二年九月九日修正決議の上答申

一九 諮問第十九號 一部換地位置竝面積變更に関する件 (淡路町一丁目、駿河臺南、甲賀町及永富町の各一部)

昭和二年五月二十三日諮問

同日原案可決の上答申

二〇 諮問第二十號 一部換地位置竝面積變更に関する件 (佐柄木町、須田町、小川町、三河町一丁目、旭町及千代田町の各一部)

昭和二年六月六日諮問

委員會二回 協議會二回開催

昭和二年六月二十九日修正決議の上答申

二一 諮問第二十一號 一部換地位置面積變更に関する件 (小川町の一部)

昭和二年六月二十九日諮問

同日關係者に於て更に協定し度旨申出ありたるを以て撤回

二二 諮問第二十二號 一部換地位置面積決定に関する件 (鍋町及錦町三丁目、各一部)

昭和二年七月九日諮問

同日原案可決の上答申

二三 諮問第二十三號 一部換地位置竝面積變更に関する件 (堅大工町、旭町、千代田町及三河町二丁目の各一部)

昭和二年七月九日諮問

同日原案可決の上答申

第八地區 甲 整地

二四 諮問第二十四號 一部換地位置竝面積變更に関する件

(錦町一丁目の一部)

昭和二年九月二十三日諮問

同日原案可決の上答申

二五 諮問第二十五號 一部換地位置竝面積變更に関する件

(多町二丁目、連雀町、雉子町、新銀町、鍋町、美土代町二丁目、同三丁目、佐柄木町)

(錦町二丁目及表神保町の各一部)

昭和二年九月二十三日諮問

委員會四回 協議會四回開催

昭和三年三月二十四日修正決議の上答申

二六 諮問第二十六號 一部換地位置竝面積變更に関する件

(小柳町、須田町、淡路町二丁目、小川町、駿河臺南甲賀町、連雀町及佐柄木町の各一部)

昭和二年十一月五日諮問

同日原案可決の上答申

二七 諮問第二十七號 一部換地位置竝面積變更に関する件

(千代田町、鎌倉町、美土代町一丁目、同二丁目、蠟燭町、平永町、雉子町、三河町三丁目及同四丁目)

(丁目及同四丁目各一部)

昭和二年十二月十七日諮問

同日原案可決の上答申

二八 諮問第二十八號 一部換地位置竝面積變更に関する件

(錦町二丁目、須田町、小柳町、蠟燭町、新河町一丁目、美土代町一丁目、鍛冶町及新

(銀町の各一部)

昭和三年三月二十四日諮問

委員會二回 協議會二回開催

昭和四年三月十九日原案可決の上答申

同日原案可決の上答申

二八 諮問第二十八號

一部換地位置竝面積變更に関する件

(錦町二丁目、須田町、小柳町、蠟燭町、三河町一丁目、美土代町一丁目、鍛冶町及新

銀町の  
各一部)

昭和三年三月二十四日諮問  
委員會二回 協議會二回開催  
昭和四年三月十九日原案可決の上答申

議事要綱

本案中小柳町に關するものは第六地區内神田區駿河臺袋町二十八番整理前十番ノ三面積百五十坪六四の東京市買収地を昭和二年九月二十日當地區に追加編入したる結果第二章整理前土地の狀況參照小柳町二番ノ一及二番ノ二を該土地に飛換地せむとするものにして、偶々駿河臺袋町該地の兩隣地所有者は小柳町二番ノ一、二番ノ二面積合計八〇坪を收得し、之が換地として受け度希望ありたるに依る變更案にして、特種なる換地なりしを以て委員會は特別調査委員を設け慎重協議の結果原案を可決したり。

二九 諮問第二十九號

一部換地位置竝面積變更に関する件

(小川町、須田町、佐柄木町、堅大工町、皆川町、三河町一丁目、同二丁目、千代田町、

表神保町、多町二丁目、錦町一丁目、同三丁目、新銀町及關口町の各一部)

昭和三年六月十四日諮問

委員會三回 協議會三回開催

昭和三年八月八日一部を保留し、原案可決の上答申

議事要綱

本案多町二丁目の一部中には、本市電氣局軌道用地の換地に對し一部追加交付を爲したるものあり、即ち電氣局軌道用地須田町十四番ノ一は、整理前須田町交叉點の西側に位し周圍道路を以て圍まるゝ三角形の面積八十坪三勺の土地にして、其の評價極めて高價に評定せらる可き位置にあり、之に對し

第八地區 甲 整地

新設幹線第二號と在來道路との角地を換地せるも、従前より評定低き土地にして然も設計上五十二坪一合九勺の土地を交付したるに過ぎざりしを以て、更に多町二丁目に於て買收地の一部四十三坪九四を追加換地せむが爲此の變更案を提出したるに、委員會に於て特別委員を擧げて審議の結果原案の通可決せり(本案は後日富士生命保險會社の換地に關聯して更に換地の追加交付をなせり、諮問第三十號参照)

錦町一丁目の一部並新銀町の一部の變更案は諮問第八號に於て決定せる富士生命保險會社並在郷軍人會の換地に關するものにして、前決定に依るときは富士生命保險會社用地の一隅に在郷軍人會神田分會用地換地せられ、同會社用地は多大の犠牲を拂ひ錦町一丁目の正方形の土地に換ふるに飛地を以て忍ばむとするに拘はらず、斯くの如く用地の一隅に他の換地の介在せるは土地の利用上甚だ不便なるを以て、是非共之を除かれむ事を陳情せり、依て當局は飛換地の事情を參酌して在郷軍人會神田分會用地を除き、其の面積を六百四十七坪五合三勺に増加換地し、之と共に軍人會用地を新銀町神田小公園用地の一部に、九十六坪八合四勺に増加して換地するの變更案を提出せり、然るに委員會に於ては既に慎重審議決定せるものを故なくして變更し會社用地を増加するが如きは、同會社のみにする不公平の處置なりとして強固なる反對意見を述べ、且軍人分會に於ても之と相呼應し、錦町三丁目より該地に換地せられたるは萬世橋驛前なるが故に承認したるものにして、已に該地に於て建築の設計成り正に著手せむとするに際し、之を變更するが如きは絶対に承服するを得ずとして反對せるが爲、本變更案は紛糾を重ね決議を見ずして遂に保留するに至れり(次號諮問参照)

三〇 諮問第三十號 一部換地位置並面積變更に關する件 (連雀町、錦町一丁目、須田町、鍛冶町及新銀町の各一部)

昭和三年六月二十九日諮問  
同日原案可決の上答申

議事要綱

本案中錦町一丁目及連雀町の一部は、第二十九號諮問提案の際保留せられたる富士生命保險會社用地換地の變更にして、前諮問案に對し委員會の反對したる主なる理由は、同會社用地換地を既決案に比して増加交付するの點にありしを以て、之を考慮して同換地の裏地四合各線二畝八二坪五合

本變更案は紛糾を重ね決議を見ずして遂に保留するに至れり(次號諮問參照)

三〇 諮問第三十號 一部換地位置竝面積變更に關する件 (連雀町、錦町一丁目、須田町、

昭和三年六月二十九日諮問

同日原案可決の上答申

### 議事要綱

本案中錦町一丁目及連雀町の一部は、第二十九號諮問提案の際保留せられたる富士生命保險會社用地換地の變更にして、前諮問案に對し委員會の反對したる主なる理由は、同會社用地換地を既決案に比して増加交付するの點にありしを以て、之を考慮して同換地の裏地四米路線に沿ひて五十一坪五合二勺竝十六坪合計六十七坪五合二勺を減じ、五百八十三坪五合を換地する事とし、裏地五十一坪五合二勺は本市電氣局用地として追加交付し、十六坪は第二種材料置場に指定することに變更せり、而して一方軍人分會の反對につきましては新銀町の換地の位置は小公園に隣接し、且正面二十二米の新設幹線第三十五號に面するを以て同會の性質上決して不利なる換地に非ざるを説示して其の諒解を得たるを以て、漸く委員會に於ても兩者の變更を承認し之が決議を了せり。

三一 諮問第三十一號 一部換地位置竝面積變更に關する件

(須田町、通新石町、小川町、多町一丁目、鍋

目、新銀町、皆川町、旭町、  
佐柄木町及永富町の各一部)

昭和三年八月八日諮問

同日原案可決の上答申

三二 諮問第三十二號 一部換地位置竝面積變更に關する件

(平永町、連雀町、小川町、佐柄木町、通新

丁目、同二丁目、鎌倉町、  
及錦町一丁目の各一部)

昭和三年十一月十七日諮問

同日原案可決の上答申

### 議事要綱

本案中連雀町の一部は逓信省所有地内警視廳萬世橋消防署使用地の變更にして、消防署用地は逓信

第八地區 甲 整地

省所有地の一部百六十八坪五勺を使用せるものなりしが、之に關し諮問第三十號案に於て遞信省用地の幹線第三十五號竝萬世橋驛前十五米街路の角地に於て、幹線に沿ひ十五間一分、十五米街路に沿ひ十五間一分、換地面積百六十五坪二勺を換地したり、然るに之に依るときは消防署の建築に際し現在の郵便局建物に支障を來し、急速に建築する事能はざるのみならず、郵便局の幹線沿ひの間口を減じ將來同局の改築上支障を生ずることとなるを以て再三協議の結果、消防署用地として幹線沿ひに七間九分、十五米街路沿ひに二十三間の換地を爲すべく變更したるものにして、之に對し委員會は異議なく原案を可決したり。

三三 諮問第三十三號 一部換地位置竝面積變更に關する件

(雉子町、淡路町一丁目、小川町、新銀町、佐柄木町、旭町及錦町三丁目の各一部)

昭和四年二月二十七日諮問

同日原案可決の上答申

三四 諮問第三十四號 一部換地位置竝面積變更に關する件

(須田町、小川町、上白壁町、通新石町、多町二丁目、佐柄木町、新銀町、旭町、千代

田町、皆川町、蠟燭町、永富町、三河町四丁目、美土代町一丁目、同二丁目及錦町三丁目の各一部)

昭和四年五月七日諮問

同日原案可決の上答申

三五 諮問第三十五號 一部換地位置竝面積變更に關する件

(鍛冶町、千代田町、三河町二丁目、錦町一丁目、同三丁目、小川町、表神保町、駿河

臺南甲賀町、淡路町一丁目、同二丁目、佐柄木町、雉子町、新銀町、多町一丁目、須田町及小柳町の各一部)

昭和四年十月二十一日諮問

同日原案可決の上答申

三六 諮問第三十六號 一部換地位置竝面積變更に關する件

(錦町一丁目、同三丁目及淡路町二丁目の各一部)

昭和四年十月二十一日諮問

同日原案可決の上答申



三五 諮問第三十五號 一部換地位置竝面積變更に関する件

臺南甲賀町、淡路町一丁目、同二丁目、佐柄木町、雉子町、新銀町、多町一丁目、須田町及小柳町の各一部

（鍛冶町、千代田町、三河町二丁目、錦町一丁目、同三丁目、小川町、表神保町、駿河

昭和四年十月二十一日諮問  
同日原案可決の上答申

三六 諮問第三十六號 一部換地位置竝面積變更に関する件

（錦町一丁目、同三丁目及淡路町二丁目の各一部）

昭和四年十月二十一日諮問  
同日原案可決の上答申

三七 諮問第三十七號 土地各筆清算に関する件

昭和四年十二月二十六日諮問  
同日原案可決の上答申

三八 諮問第三十八號 換地處分に関する件

昭和五年二月四日諮問  
同日原案可決の上答申

三九 諮問第三十九號 補償金配當割合決定に関する件

特別都市計畫法第八條第一項の補償金配當割合を左の通定めむとす。  
左記各所有權に對する配當額は整理前指數相當額とす。  
前項以外の土地に對する配當割合は、補償總指數より前項の配當額を控除したるものを、特別都市計畫法施行令第二十八條第一項に依る各權利の整理前指數に按分したる率に依るものとす。

記

町名	地番	町名	地番
駿河臺南甲賀町	三ノ二合併	三河町二丁目	五ノ二、六ノ一九

第八地區 甲 整地

五三五

雉子町	一、四、五、六、七、三二ノ 二、三二ノ二、三二ノ三	佐柄木町	二一ノ二六、二一ノ三〇、二一ノ 三四、二一ノ三六、二一ノ三九、 二一ノ四一、二一ノ四二、二一ノ 四四、二一ノ四九、二一ノ五三、 二一ノ五四、二一ノ五七、二一ノ 六〇、二一ノ六二、二一ノ六五、 二一ノ六八、二一ノ六九、二一ノ 七一、二一ノ七四、二一ノ八四
新銀町	一〇ノ二、二八ノ三、二八ノ四、 二八ノ六、三七ノ二、三八ノ二、 三ノ二、四ノ二、五ノ二、六ノ三、 七ノ三	蠟燭町	四ノ三、五ノ一、五ノ二
皆川町	一〇ノ一、三三	旭町	一七ノ二、二六ノ一、二六ノ八
松下町	一三ノ三、一五ノ二、一五ノ三、 一五ノ四	堅大工町	二一ノ二
鎌倉町	二一	鍛冶町	三九
美土代町一丁目	八ノ六、一七ノ五	黒門町	四ノ一
同 三丁目	一ノ七、一三ノ三	鍋町	八、九ノ一、一〇
同 四丁目	二ノ四	多町二丁目	四ノ二、七ノ二、一六ノ一、二〇 ノ二、二二ノ二
表神保町	一〇ノ一〇	通新石町	三ノ二、一八ノ一、一八ノ六、一 九ノ四、二二ノ二
錦町一丁目	一九ノ一〇、一九ノ一六、一九ノ 一七、一九ノ三一、一九ノ三二、 一九ノ三三、一九ノ四四	連雀町	四、七、一四ノ三、一四ノ四、一 五ノ二、一六ノ二
同 二丁目	三ノ五、三ノ六、六ノ三	須田町	二四ノ二
小川町	三九ノ一、四三ノ二	小柳町	二七ノ二
	一一ノ二、一五ノ二、二一ノ六、 二一ノ二、二一ノ四、二一ノ 一七、二一ノ一九、二一ノ二二、 二一ノ一九、二一ノ二二、	駿河臺袋町	二八

以上各所有權

右昭和五年二月四日諮問

同日原案可決の上答申

四〇 諮問第四十號

換地處分に關する諮問に對し整理委員會の答申後土地又ま土地を關

小川町	三九ノ一、四三ノ二	須田町	二四ノ二
	一一ノ二、一五ノ二、二一ノ六、 二一ノ二、二一ノ四、二一ノ 一七、二一ノ一九、二一ノ三二、	小柳町	二七ノ二
		駿河臺袋町	二八

以上各所有權

右昭和五年二月四日諮問

同日原案可決の上答申

四〇 諮問第四十號 換地處分に關する諮問に對し整理委員會の答申後土地又は土地に關する權利の變動ある場合の處分方の件

諮問第三十八號換地處分に關する諮問に對し、整理委員會の答申後換地處分告示の日迄に於て、土地の分合又は土地に關する權利の得喪、變更あるときは左記の通換地説明書を變更せむとす。

記

- 一 土地分合の登記ありたるときは、其の範圍を指定すると共に整理前後の權利指數並清算金額を算出し、以て換地説明書中當該部分を變更す。
- 二 借地權設定の登記若は届出ありたる時、又は所有權及借地權の移轉並借地權に付轉貸の登記若は届出ありたる時は、當該權利の範圍を指定すると共に整理前後の權利指數及清算金額を算出し、換地説明書中當該部分を變更す。
- 三 處分の制限に關する登記ありたる時は、當該權利の換地に付制限を受くべき部分を適當に指定し換地説明書に之を記載す。

右昭和五年二月四日諮問

同日原案可決の上答申

## 第二章 整理前土地の狀況

本地區の總面積は二十三萬千七百六十七坪九合九勺にして、内宅地面積十六萬千七百七十七坪三合四勺、公共用地面積六萬九千九百九十坪六合五勺なり、宅地面積及公共用地面積が地區總面積に對する割合は宅地六割九分八厘、公共用地三割二厘なり、宅地内借地面積は十萬八千百三十三坪五合六勺にして、之が宅地面積に對する割合は六割六分八厘なり。

本地區告示當初には駿河臺袋町の一部を包含せざりしが、昭和二年九月二十日市告示第二百九十八號を以て地區に追加編入したり、其の経緯次の如し。

駿河臺袋町は國施行第六號地區に屬せしが、同地區區劃整理減步緩和の必要上、大正十四年八月復興局整地部長より本市に對し土地買収方に付依頼あり、依て本市は同年十一月二日該地區補助線第八號街路潰地の充當用として同町十番ノ三に於て宅地百七十二坪一合を買収して之を提供せり、然るに第六地區區劃整理委員會に於て、本土を換地に充當するの復興局原案を否決したる結果、第六地區に於て之を潰地に充當する能はず、宅地百五十坪六合四勺を同所に於て換地として本市に交付し換地處分を了せり、故に本土は土地補償の費目を以て支辨したるに拘らず其の目的を達する事能はざりしが、偶々補助線第八號は第八地區界を通ずる關係上之を本地區の潰地充當用地として處理するを最も適當となし、之れを第八地區に編入し其の目的を達成したり。

本地區に於ける街路及河川分布の狀況を述べれば左の如し。

## 一 主要街路

地區の東部を今川橋方面より須田町を経て昌平橋に至る街路は幅員十五間、神田橋より小川町電車停

留場に至る街路は幅員十五間、九段方面より地區の北部を貫通し小川町、須田町を経て萬世橋に通ずる

街路は幅員十五間、萬世橋南詰に於て前記街路より分岐し柳原河岸を兩國方面に至る街路は幅員約十間、

地區の東南龍閑橋より外濠に沿ひ神田橋北詰を横切り、錦町三丁目二十番ノ一地先を右折し、第七地區

東に北進し、御茶ノ水方面に至る街路は幅員八間乃至十二間にして、河内も電車軌道を敷設す。

助線第八號は第八地區界を通ずる關係上之を本地區の潰地充當用地として處理するを最も適當となし之れを第八地區に編入し其の目的を達成したり。

本地區に於ける街路及河川分布の狀況を述べれば左の如し。

### 一 主要街路

地區の東部を今川橋方面より須田町を経て昌平橋に至る街路は幅員十五間、神田橋より小川町電車停

留場に至る街路は幅員十五間、九段方面より地區の北部を貫通し小川町、須田町を経て萬世橋に通ずる街路は幅員十五間、萬世橋南詰に於て前記街路より分岐し柳原河岸を兩國方面に至る街路は幅員約十間、地區の東南龍閑橋より外濠に沿ひ神田橋北詰を横切り、錦町三丁目二十番ノ一地先を右折し、第七地區界を北進して御茶ノ水方面に至る街路は幅員八間乃至十二間にして、何れも電車軌道を敷設す。

### 二 其の他の街路

神田驛前より西へ地區の中央を横斷し市電美土代町停留場を経て市電錦町三丁目停留場に至る街路は幅員十間、市電小川町停留場と市電駿河臺下停留場との中間より北上して駿河臺南甲賀町七番地先に至る街路は幅員十間、新石町五番ノ一地先より多町一丁目九番地先に至る街路は幅員十間、淡路町一丁目一番ノ一地先電車通より東北昌平橋に至る街路は幅員約七間なり、其の他の街路は概ね整然たる系統を有するも、小川町、淡路町一丁目、駿河臺南甲賀町地内は幅員狭少にして屈曲し交通不便なり。

### 三 河 川

外濠は地區の南端に在り幅員約十九間、深度二尺一寸にして舟楫の便多く河心を地區界とす、神田川は地區の東北端柳原河岸の一部を界し幅員約十五間、深度一尺三寸にして舟運の便最も多く河心を地區界とす、龍閑川は地區の東南一部に接し幅員約七間半、深度一尺二寸にして河心を地區界とす。

## 第三章 計畫の概要

### 第一節 街路及小公園計畫

本地區に於ける特別都市計畫委員會議定の街路及小公園左の如し。

### 第一 幹線街路

第二號線は九段方面より市電駿河臺下停留場及須田町停留場を経て兩國橋方面に至る幅員三十六米の街路にして大部分は在來電車の南側に擴張したるも、佐柄木町、連雀町界十五米區劃街路の交叉點に於て舊電車通より東走して地區界に至る間は新設せり、本線は當初幹線第三十五號線交叉點附近に於て右折する計畫なりしも、其後の調査により地下埋設物整理、換地設計等の關係上其折點を東方に変更し、昭和三年十二月二十八日の特別都市計畫委員會の決定を経たり、第十二號線は神田橋より聖橋方面に至る街路にして神田橋より市電小川町停留場迄の幅員を三十三米とし在來街路の兩側に擴張し、小川町停留場以北は幅員を二十七米とし新設せり、第十九號線は龍閑橋より外濠に沿ひ神田橋北詰を経て錦橋に至る幅員二十七米の街路にして、龍閑橋より神田橋北詰迄は在來街路の兩側に、神田橋より錦橋迄は在來街路の北側に於て擴張せり、第三十四號線は龍閑橋北詰に於て幹線第十九號より分岐し神田驛南口に至る幅員二十二米の街路にして新設せり、第三十五號線は新設鎌倉橋より昌平橋に至る幅員二十二米の街路にして、大部分は新設にして北方第六地區と境を爲す部分のみは在來街路の兩側に擴張せり、第四十六號線は市電須田町停留場附近に於て在來鍛冶町電車通より分岐し、幹線第二號と交叉して萬世橋に至る幅員三十六米の街路にして、橋詰の部分の外新設せり、第四十九號線は神田驛北口より地區の中央を東西に貫通し錦町三丁目に至る幅員二十二米の街路にして、在來街路の北側に擴張せり。

以上の幹線計畫に對し大正十四年八月本地區土地區劃整理委員會協議會の決議に基き、設計變更に關し同會正副議長より左記要領の陳情をなせり。

一 第十九號線中鎌倉河岸沿は河岸側にのみ擴張せられ度。

一 第二號線中街路の兩側に平等に擴張せられ度。

一 第四十九號線は街路の兩側に擴張せられ度。

即ち幹線擴張に據る潰地は兩側平等負擔を正當なりと主張し、本案の解決を見る迄は他の諮問案の審議停頓するの狀態にありしを以て、同年八月二十日復興局長官より既定計畫の變更を認むべき特別の事

以上の幹線計畫に對し大正十四年八月本地區土地區劃整理委員會協議會の決議に基き、設計變更に關し同會正副議長より左記要領の陳情をなせり。

- 一 第十九號線中鎌倉河岸沿は河岸側にのみ擴張せられ度。
- 一 第二號線中街路の兩側に平等に擴張せられ度。

- 一 第四十九號線は街路の兩側に擴張せられ度。

即ち幹線擴張に據る潰地は兩側平等負擔を正當なりと主張し、本案の解決を見る迄は他の諮問案の審議停頓するの狀態にありしを以て、同年八月二十日復興局長官より既定計畫の變更を認むべき特別の事由なきを以て變更し難き旨の回答をなし、且兩側潰地の不公平は換地設計並清算に於て公平を保たるべきを説明して漸く之が諒解を得たり。

## 第二 補助線街路

第八號線は地區の西側錦橋より御茶ノ水橋方面に至る幅員二十二米の街路にして、其の中心を地區界と爲し在來街路の兩側に擴張せり、第五十八號線は萬世橋南詰より和泉橋方面に至る幅員十五米の街路にして、在來電車軌道は幹線第二號に移設する事とし之れを縮少せり、其の結果從來の須田町交叉點は約八十米南方に移動したり、第六十二號線は地區の中部を横斷する幹線第四十九號の北側に於て、之に並行し幹線第三十五號より西へ錦町二丁目と表神保町との界の在來十一米街路に連絡する幅員十一米の街路にして全部新設なり。

## 第三 區劃整理街路

須田町より今川橋方面に至る在來電車通の幅員二十七米六の在來街路は、幹線第四十六號交叉點以南は其の儘存置し、幹線第二號交叉點以北は萬世橋驛角迄の一ブロック間は二十米、次の一ブロック間は二十三米九、其の以北昌平橋南詰幹線第三十五號に合する迄を十五米に縮少し、又須田町より萬世橋南詰に至る在來電車通は之を十一米に、小川町内幹線第二號より南甲賀町に至る約十間街路を十一米に狭めたり、其の他幅員二米七、三米、四米、六米、八米及十一米の街路を土地の狀況に應じ且幹線及補助線の連絡に考慮を拂ひ新設、擴築又は在來街路を改修利用せり。

## 第四 小公園

神田公園は神田區新銀町に新設し、東は幅員八米の區劃整理街路を隔て、東京市神田尋常小學校に相對し、西は大部分民地に接するも一部幹線第三十五號街路に通路を存し、南及北は共に民地に接し面積六百九十坪六合九勺なり。

本公園の特別都市計畫委員會當初の議定位置は新銀町十九、二十番にして、神田小學校の北側なりしも、當地區土地區劃整理委員會に於て其の用地は總て買収により取得す可きを主張し、容易に該位置決定案の諮問に應ぜず、依て當局に於て種々買収地を物色したるも大正十五年九月に至り僅に錦町二丁目六番ノ三、百坪を買収し得たるに過ぎず、爾來懸案の儘進行し來りしが、昭和三年二月に至りて漸く新銀町二十八番ノ六、百九十七坪八合八勺を、同年五六兩月に涉り同番ノ三及四、三百四十七坪三合九勺を買収し、合計六百四十五坪二合七勺の土地を充當することとし、其の位置變更に關し特別都市計畫委員會の議定を経て前記の位置に設定するに至り。

以上述べたる幹線、補助線及區劃整理街路の幅員、延長及面積を表示すれば左の如し。

整理後街路幅員延長面積調

區分	番號	幅員	延長	面積	備考
幹線	二	三六・〇〇 <sup>米</sup>	一、〇六六・〇四 <sup>米</sup>	三、五五五・五二 <sup>坪</sup>	
	三	三三・〇〇	六四六・三三	六、八五〇・九七	
	三	二七・〇〇	二八・二三	一、八五・〇九	
	九	二七・〇〇	七九六・四〇	六、八〇四・一五	
	四	二三・〇〇	一七三・六〇	一、二六四・五五	

三	三三・〇〇	九四・一八	六、〇六三・九七
四	三六・〇〇	一一四・一五	一、〇〇二・〇七



第八地區 甲 整地

區劃整理線	補助線		
	計	空	天
三〇〇	二七・六〇	二二・〇〇	三三・〇〇
四〇〇	二〇・〇〇	一五・〇〇	二五・〇〇
六〇〇	一三・九〇	一〇・〇〇	一八・〇〇
八〇〇	一五・〇〇	一〇・〇〇	二〇・〇〇
一一〇〇	一五・〇〇	一〇・〇〇	二〇・〇〇
一五〇〇	一五・〇〇	一〇・〇〇	二〇・〇〇
二〇〇〇	一五・〇〇	一〇・〇〇	二〇・〇〇
二七・六〇	一五・〇〇	一〇・〇〇	二〇・〇〇
一、〇六五・八七	一、〇六五・八七	一、〇六五・八七	一、〇六五・八七
三、七九・六三	三、七九・六三	三、七九・六三	三、七九・六三
一、二五五・五〇	一、二五五・五〇	一、二五五・五〇	一、二五五・五〇
一、八七・四〇	一、八七・四〇	一、八七・四〇	一、八七・四〇
六、四三・七三	六、四三・七三	六、四三・七三	六、四三・七三
一、四〇四・〇七	一、四〇四・〇七	一、四〇四・〇七	一、四〇四・〇七
五、九九・二四	五、九九・二四	五、九九・二四	五、九九・二四
四、二七・四六	四、二七・四六	四、二七・四六	四、二七・四六
六、〇六三・九七	六、〇六三・九七	六、〇六三・九七	六、〇六三・九七
一、四〇四・〇七	一、四〇四・〇七	一、四〇四・〇七	一、四〇四・〇七
一、八五・一四	一、八五・一四	一、八五・一四	一、八五・一四
四、四三・三八	四、四三・三八	四、四三・三八	四、四三・三八
三、九七四・八三	三、九七四・八三	三、九七四・八三	三、九七四・八三
五、四九〇・〇四	五、四九〇・〇四	五、四九〇・〇四	五、四九〇・〇四
三、二八・二四	三、二八・二四	三、二八・二四	三、二八・二四
一、〇三四・二七	一、〇三四・二七	一、〇三四・二七	一、〇三四・二七
二、二七〇・六六	二、二七〇・六六	二、二七〇・六六	二、二七〇・六六
七、四〇・四四	七、四〇・四四	七、四〇・四四	七、四〇・四四
二、二四九・〇五	二、二四九・〇五	二、二四九・〇五	二、二四九・〇五
三、六〇七・一六	三、六〇七・一六	三、六〇七・一六	三、六〇七・一六
舊道存置	舊道利用	舊道利用	舊道利用
舊道利用	舊道利用	舊道利用	舊道利用
舊道利用	舊道利用	舊道利用	舊道利用
舊道利用	舊道利用	舊道利用	舊道利用
一部地區界	一部地區界	一部地區界	一部地區界
一部地區界	一部地區界	一部地區界	一部地區界
一部地區界	一部地區界	一部地區界	一部地區界
地區界	地區界	地區界	地區界

幹線

計

三〇〇

一七三・六〇

一、二六四・五五

七九六・四

六、八〇四・一五

一、八五〇・九

二八・一三

二七〇・〇

二七〇・〇

三〇〇

計	計	二五、九七六	四、一四八・〇〇	一五・五八	二・八五
				二七三 (一問半)	二〇、〇三〇・〇〇
合					

第二節 換地設計

換地位置決定に關する件は大正十四年五月十二日土地區劃整理委員會に附議し保留中なりしが、面積決定案を提出するに當り之と共に審議を爲すこととせり、而して換地面積決定に關する件は大正十五年二月二日より昭和二年七月九日迄十數回に分ちて提出したるに、大正十五年十二月三日より昭和二年七月九日迄十六回に亘り換地位置面積の兩案を順次決定せり、其の間昭和二年二月二十八日より同年六月六日迄七回に亘り既に位置決定せる部分に對し一部換地位置變更案を提出し、其の都度決議し、又昭和二年五月二十三日より同年七月九日迄四回に亘り面積の既定部分に對し一部換地面積變更案を提出し、其の都度決議し、尙全地區位置面積決定後昭和二年九月二十三日より同四年十月二十一日迄十三回に亘り一部換地位置並面積變更案を提出し、其の都度決議し、以て地區全部の議了を見たり。

換地設計に因る宅地面積十三萬六千四坪八合八勺、公共用地面積九萬五千七百六十三坪一合一勺にして、宅地面積及公共用地面積が地區總面積に對する割合は宅地五割八分七厘、公共用地四割一分三厘なり、宅地の内借地面積は九萬七千七百七十八坪八合二勺にして、其の宅地面積に對する割合は七割一分九厘なり、而して宅地が公共用地となりたる面積三萬四千五十坪九合四勺、公共用地が宅地となりたる面積八千二百七十八坪四合八勺、其の差引潰地面積二萬五千七百七十二坪四合六勺、減歩率一割五分九厘なり。

厘なり。

整理前後に於ける土地の狀況を表示すれば左の如し。

整理前後土地面積調

り、宅地の内借地面積は九萬七千七百七十八坪八合二勺にして、其の宅地面積に對する割合は七割一分九厘なり、而して宅地が公共用地となりたる面積三萬四千五十坪九合四勺、公共用地が宅地となりたる面積八千二百七十八坪四合八勺、其の差引潰地面積二萬五千七百七十二坪四合六勺、減歩率一割五分九厘なり。

厘なり。

整理前後に於ける土地の狀況を表示すれば左の如し。

整理前後土地面積調

整理後	整理前	區分總面積		内借地面積	宅地面積	公共用地面積	潰地面積	潰地面積の整理前宅地面積に對する割合	潰地面積より整理前宅地面積を控除し補償する面積
		宅地面積	公共用地面積						
九七、七六・八二	一〇八、二三・五八	一六二、七七・三六	二〇八、二三・五八	〇・六九八	六九、九〇・六五	〇・三〇二	一五、七七・四六	〇・二五九〇・八二	九、五四・七三
二六、八四・五一	一四三、一八・二五	二六、八四・五一	二六、八四・五一	〇・七一九	九五、七六・三二	〇・四三三		二、〇六・七	
			二三、七七・九						

備考 面積は實測面積なり、但し整理前借地面積は申告に據る。

宅地面積内譯

整理後	整理前	區分民有地		國有地	公有地	計
		民有地	國有地			
二六、八四・五一	一四三、一八・二五	二六、八四・五一	一〇、〇六・三〇	二、〇六・七	七、〇六・六六	一六二、七七・三六
						三六、〇〇・八

第八地區 甲 整地

第八地區 甲 整理地

整理前公共用地面積内譯

國有	街	四九、三五・三三 <sup>坪</sup>	河川運河	六、一三・二六 <sup>坪</sup>
公有	路	六、四八・七六 <sup>坪</sup>	公園	— <sup>坪</sup>
民有	小計	六、三〇・四〇 <sup>坪</sup>	共同物揚場	三、五八・七三 <sup>坪</sup>
		六、三〇・四〇 <sup>坪</sup>	堤塘	— <sup>坪</sup>
		六、三〇・四〇 <sup>坪</sup>	溝渠	一、三九・三七 <sup>坪</sup>
		六、三〇・四〇 <sup>坪</sup>	合計	九、九〇・六一 <sup>坪</sup>

五四六

整理後公共用地面積内譯

國有	街	四二、七七・四六 <sup>坪</sup>	河川運河	— <sup>坪</sup>
公有	路	三、七九・六三 <sup>坪</sup>	公園	— <sup>坪</sup>
民有	小計	四二、一八・〇〇 <sup>坪</sup>	共同物揚場	六、九〇・六九 <sup>坪</sup>
		四二、一八・〇〇 <sup>坪</sup>	堤塘	— <sup>坪</sup>
		四二、一八・〇〇 <sup>坪</sup>	溝渠	— <sup>坪</sup>
		四二、一八・〇〇 <sup>坪</sup>	合計	六、九〇・六九 <sup>坪</sup>

宅地が公共用地となりたる面積

國有	街	一五、七六・〇三 <sup>坪</sup>	河川運河	— <sup>坪</sup>
公有	路	一、四七・六三 <sup>坪</sup>	公園	六、九〇・六九 <sup>坪</sup>
民有	小計	一六、二三・六六 <sup>坪</sup>	共同物揚場	三・二六 <sup>坪</sup>
		一六、二三・六六 <sup>坪</sup>	堤塘	— <sup>坪</sup>
		一六、二三・六六 <sup>坪</sup>	溝渠	— <sup>坪</sup>
		一六、二三・六六 <sup>坪</sup>	合計	一〇、一六・九五 <sup>坪</sup>

公共用地が宅地となりたる面積

國有	街	河川運河	公園	共同物揚場	堤塘	溝渠	合計
公有	路	—	—	—	—	—	—
民有	小計	—	—	—	—	—	—
		—	—	—	—	—	—
		—	—	—	—	—	—
		—	—	—	—	—	—

一五、七六・〇三	一、四七六・三	一六、二六・六	三、三三・九	一	六九〇・六九	二、二六	一	三、〇五・九四
----------	---------	---------	--------	---	--------	------	---	---------

公共用地が宅地となりたる面積

國有	公有	民有	小計	河川運河	公園	共同物揚場	堤塘	溝渠	合計
四、三五・二	五九・五	三、〇四・〇〇	七、九八・七	一	一	三・六	一	三〇・三	八、二八・四

備考 各公共用地の整理前面積に「宅地が公共用地となりたる面積」を加へ、「公共用地が宅地となりたる面積」を減ずるも整理後面積に合致せざるは、公共用地間の用途變更を爲したるものあるに依る。

換地設計上地區を整理前八十ブロック、整理後百五十七ブロックに分ち處理せしも、對照の便宜上十分區とせり、其の區域及分區別整理前後宅地潰地面積を表示すれば左の如し。

分區別區域調

分區番號	區	域	分區番號	區	域
一	小川町の一部		六	美土代町一丁目、三河町一丁目、松下町	
二	表神保町、錦町三丁目の一部		七	鎌倉町、千代田町、西今川町	
三	錦町三丁目の一部		八	美土代町二丁目、三河町二丁目、皆川町の一部、蠟燭町の一部	
四	錦町一丁目、錦町三丁目の各一部		九	蠟燭町、皆川町の各一部、旭町、永富町	
五	錦町一丁目の一部、錦町二丁目			堅大工町、新石町の一部、鍛冶町、上白壁町の各一部	

第八地區 甲 整地

分區別整理前後宅地潰地面積調

分區番號	整理前面積	整理後面積	潰地面積	減步率
一	七、六七・六〇	六、九八・三二	六、九七・三元	〇・九一
二	七、七五・二二	六、三九・八一	一、五五・四〇	〇・一九
三	五、二八・〇八	四、四八・〇三	七九六・〇五	〇・一五
四	一一、〇四・三〇	九、八八・三三	一、〇三・〇七	〇・一〇
五	一〇、五四・八六	八、四七・二六	二、〇五・七〇	〇・一九
六	一七、七三・七九	一五、六〇・〇二	二、一六・七七	〇・一二
七	八、八〇・五九	七、五七・七二	一、三〇・八四	〇・一四
八	一一、四二・〇一	九、七四・五三	一、六八・四九	〇・一四
九	四、四〇・〇七	三、七四・八二	六六・二五	〇・一四
一〇	二八、一八・〇一	二三、四八・四六	四、七五・五五	〇・一七
一一	一一、五九・二五	九、三六・五九	二、三六・六六	〇・一九

通新石町、鍋町、佐柄木町、雉子町、美土代町、四丁目の各一部、美土代町三丁目、三河町三丁目、新銀町、多町一、二丁目、關口町  
 須田町、通新石町、鍋町、黒門町、柳町、小柳町、平永町の各一部

須田町、佐柄木町、雉子町、美土代町四丁目の各一部、連雀町  
 淡路町一、二丁目、駿河臺南甲賀町、小川町の一部、駿河臺袋町の一部

計	一六、八三・〇〇	一二、四七・三四	四、三九・六六	〇・一五九
三	二〇、四八・五九	一七、八五・九六	二、五七・六三	〇・二七
二	一六、七七・三四	一三、〇四・八八	二、五、七、四六	〇・一五九

二	〇	九	八
二、四、〇、〇	四、四〇一・〇七	二、一八七・〇一	二、五九一・二五
三、七四・八二	三、四八一・四六	二、三、四、一、四、一	九、三、四、一、五
六、六、二、五	四、七〇五・五五	二、二、六、六、六	〇、二、六、七
〇、二、四、三	〇、二、六、七	〇、二、九、二	

計	三	三
一六、八三・〇〇	二〇、四八・五九	一六、七七・三三
二、四七三・三三	一七、八〇・九六	一六、〇〇四・八八
四、三九六・六六	二、五七三・三三	二、五、七、三、〇、六
〇、二、五、九	〇、二、七	〇、二、五、九

斯の如く分區間の減歩率區々にして最高は第十二號分區の二割五分九厘、最低は第一號分區の九分一厘、地區平均減歩率一割五分九厘となり、換地交付上支障を生じたるが故に減歩調節の爲潰地充當用として宅地八千三百五十五坪五合一勺(外私道十三坪三合四勺)を買收し、且分區間に三千四百五十四坪二合六勺の移出入を行ひたり、分區間の移出入關係を表示すれば左の如し。

分區間移出入面積調

移出分區	移入分區	坪
一	一	
二	二	
三	三	
四	四	七二・空
五	五	
六	六	
七	七	四・〇
八	八	一五・七
九	九	八・七
一〇	一〇	八・〇
一一	一一	
一二	一二	九・〇
一三	一三	六三・三
計	計	九・〇

第八地區 甲 整地

計	三	二	一〇	九
三三三・〇〇	三三三・〇〇			
七七・三五				
一四〇・〇〇			九四・〇〇	
一九五・七二				
六・三五			五・〇〇	
七六・七八・七	五九・〇〇			
七〇・七三				
三三〇・三三			二四・三三	
三三〇・三三		六・〇〇	八・〇〇	
三三〇・三三	三三・〇〇	六・七・〇〇	八・〇・〇〇	
三三〇・三三			七〇・七三	

以上述べたる如く換地設計の必要上潰地充當用地を買収し、且分區間に宅地の移出入を爲したる結果、各分區間の減歩率に變更を來し其の最高は第十二號分區の一割五分四厘、其の最低は第六號分區の八分六厘となれり、而して本地區に於ける實際潰地面積は一萬七千四百十六坪九合五勺に減少し、其の減歩率は一割一分四厘に低下せり、左に分區別買収面積、移出入面積、實際潰地面積及減歩率を表示すべし。

分區別買収移出入及實際潰地面積調

分區番號	整理前面積	買収面積	移出面積	移入面積	差引面積	整理後面積	實際潰地面積	減歩率
一	七、六九・六〇	三五四・三六		三七三・〇〇	七、六九・二四	六、九八・二二	七二六・〇三	〇・〇九五
二	七、七五・二二	四七九・二二	九・〇〇		七、一九八・〇九	六、二九・八一	九五八・二六	〇・一三三
三	五、二八・〇八				五、二八・〇八	四、四六・〇三	七九六・〇五	〇・一五一
四	一一、〇八・三〇	一九二・三六	六六・二三	七七・六五	一〇、九六・三五	九、八一・二三	一、〇八・一二	〇・〇九九
五	一〇、五四・六六	二四・五	七七・六五		九、六五・七〇	八、四九・二六	一、二五・五四	〇・二二〇

八	一、四一・〇二	五五五・六三		一九五・七二	二、一〇一・一〇	九、七九・五三	一、三〇六・五七	〇・二一八
七	八、八〇・五六	二八四・七六	一五・七	一四〇・〇〇	八、六〇・〇三	七、五七・七一	一、〇一九・三三	〇・一一〇
六	一七、七三・七九	三六四・七三	二五・五九		一七、〇八・四八	一五、六〇・〇二	一、四七三・四六	〇・〇六六



五	一〇、四七・八六	二四・五	七二・五	九、六五〇・七〇	八、四九七・二六	一、一五三・五四	〇・二二〇
四	一一、〇八四・三〇	一九二・六六	六九六・三三	一〇、九六八・三五	九、八八二・三三	一、〇八七・三二	〇・〇九九
三	五、一八二・〇八	—	—	—	四、四八六・〇三	七九六・〇五	〇・一五一
二	七、七五二	四九三・三	九、〇〇〇	—	—	—	—

六	一七、七三三・七九	三六四・七三	二五八・五九	—	一七、〇八〇・四八	一五、六〇七・〇二	一、四七三・四六	〇・〇八六
七	八、八〇二・五九	二八四・七六	五七・七	一四〇・〇〇	八、六〇一・〇三	七、五七一・七二	一、〇一九・三一	〇・二二〇
八	一一、四一〇・二二	五五五・三三	—	一九五・七一	一一、一〇一・一〇	九、七九四・五三	一、三〇六・五七	〇・二一八
九	四、四〇一・〇七	一八一・三七	七〇・七三	六二・六七	四、二〇〇・六四	三、七四〇・八二	四三五・八二	〇・二〇四
〇	二八、一八七・〇一	二、四三三・三二	三九・三三	七六・九七	二六、一〇二・三五	二三、四八一・四六	二、六九八・八九	〇・二〇〇
一	一一、五九一・二五	五四七・四八	八〇・〇〇	七〇・七三	一一、〇四一・五〇	九、三六四・五九	一、六六九・九一	〇・一五二
二	一六、八三三・〇〇	二、一四一・四六	六五七・〇〇	七二・三三	一四、七四五・七六	一二、四七三・三四	二、二七二・四二	〇・一五四
三	二〇、四八三・五九	七〇六・元九	三七三・〇〇	三九〇・三三	一九、七四九・五一	一七、八五〇・九六	一、八九八・五五	〇・〇九六
計	一六一、七七七・三四	八、三三三・五一	三、四四三・六六	三、四四三・六六	二五、四三二・八三	二二六、〇〇四・八八	一七、四二六・三五	〇・二一四

第四章 土地の評価

第一節 整理前土地の評価

整理前路線價指數並土地各筆平均坪當指數に關する件は大正十四年十二月十八日土地區劃整理委員會に附議したるに、路線價指數のみ大正十五年十二月十三日一部修正の上假決議を爲し、土地各筆平均坪當指數は決定に至らざりしが、昭和四年十二月二十六日土地各筆清算に關する件を附議するに當り之が内容を爲すものとして原案を撤回せり。

本地區整理前の土地評價には路線價に對する奥行價格百分率中甲及乙の兩率を適用したり、其の兩率適用の路線を擧ぐれば左の如し。

### 第一 甲率適用路線

- 一 今川橋方面より須田町を経て昌平橋に至る電車通。
- 二 九段方面より小川町、須田町を経て萬世橋に至る電車通。
- 三 萬世橋南詰より兩國方面に至る電車通。
- 四 龍閑橋より外濠に沿ひ神田橋北詰を経て錦町三丁目二十番ノ一地先を右折し地區界を御茶ノ水方面に至る電車通。
- 五 神田橋より市電小川町停留場に至る電車通。
- 六 省線神田驛北口前より市電美土代町停留場を経て市電錦町三丁目停留場に至る路線。
- 七 淡路町一丁目一番地先より昌平橋に至る路線。

### 第二 乙率適用路線

甲率適用以外の路線

路線價指數は土地の状況に依り百七十個乃至千個と評定せり、即ち市電須田町停留場より西へ須田町連雀町界に至る間及同停留場より南へ須田町五番ノ一地先に至る間を最高千個、駿河臺南甲賀町、小川町、淡路町一丁目、同二丁目、皆川町及松下町の各一部私道竝約一間半の路線を最低百七十個としたり、路線價指數に基き算出せる土地各筆平均坪當指數の最高は千百九個、須田町十四番ノ一にして、最低は百二十一個、駿河臺南甲賀町三番、四番ノ二なり。

宅地全筆の總指數は土地總指數四千二百三十五萬六千六百五十六個より、私道指數一萬三百六十九個

を控除したる四千二百三十四萬六千二百八十七個にして、之を宅地總面積の十六萬千七百七十七坪三合四勺にて除したる平均坪當指數は二百六十二個なり。

借地權利價割合は市有河岸地を五割五分、一般宅地を四割乃至五割と定めたり。

町、淡路町一丁目、同二丁目、皆川町及松下町の各一部私道並約一間半の路線を最低百七十個としたり、路線價指數に基き算出せる土地各筆平均坪當指數の最高は千百九個、須田町十四番ノ一にして、最低は百二十一個、駿河臺南甲賀町三番、四番ノ二なり。

宅地全筆の總指數は土地總指數四千二百三十五萬六千六百五十六個より、私道指數一萬三百六十九個

を控除したる四千二百三十四萬六千二百八十七個にして、之を宅地總面積の十六萬千七百七十七坪三合四勺にて除したる平均坪當指數は二百六十二個なり。

借地權利價割合は市有河岸地を五割五分、一般宅地を四割乃至五割と定めたり。

## 第二節 整理後土地の評價

整理後路線價指數並土地各筆平均坪當指數に關する件は單獨諮問を爲さず、昭和四年十二月二十六日土地各筆清算に關する件を提案するに際し之が内容を爲すものなるを説明し、同案件に付審議可決せり。整理後の土地評價には整理前と同じく甲及乙の兩率を適用したり、其の兩率適用の路線を擧ぐれば左の如し。

### 第一 甲率適用路線

一 整理前甲率適用の路線、但し佐柄木町より萬世橋驛南側を経て、萬世橋に至る在來電車通を十一米に縮少したる區間を除く。

二 幹線第二號中佐柄木町より須田町交叉點に至る新設區間。

三 幹線第四十六號線(新設)

### 第二 乙率適用路線

甲率適用以外の路線

路線價指數は土地の整理狀況に依り百七十五個乃至千九十個と評定せり、即ち幹線第二號市電須田町停留場より西へ須田町連雀町界に至る間を最高千九十個、小川町駿河臺南甲賀町及淡路町二丁目内三米街路の一部を最低百七十五個としたり、路線價指數に基き算出せる各筆平均坪當指數の最高は千二百個、須田町六番にして、最低は百三十二個、駿河臺南甲賀町三番なり。

第八地區 甲 整地

五五四

換地全筆の總指數は四千二十一萬八千四十三個にして、之を換地總面積十三萬六千四坪八合八勺にて除したる平均坪當指數は二百九十六個なり。

借地權利價割合は整理前と同じく市有河岸地を五割五分、一般宅地を四割乃至五割と定めたり。以上記述せる整理前後に於ける最高、最低の路線價指數並坪當指數及宅地總平均坪當指數を表示すれば左の如し。

整理前後路線價各筆坪當及宅地總平均坪當指數調

區分	整理前		整理後	
	指數	價格	指數	價格
路線價	最高 1,000.00 最低 170	1,500.00 1,550.00	最高 1,090.00 最低 175	1,635.00 1,620.00
各筆坪當	最高 1,109 最低 23	1,633.50 18.50	最高 1,100 最低 133	1,800.00 19.00
宅地總平均坪當	222	393.00	226	440.00

備考 指數單價は一圓五十錢なり。

又整理前後に於ける所有權、借地權の評定權利指數を掲ぐれば左の如し。

整理前後所有權借地權評定權利指數調

種別	整理前		整理後	
	指數	價格	指數	價格

所有權	整理前		整理後	
	指數	價格	指數	價格
(内私道)	17,161,339	40,743,493.50	17,235,922	40,836,881.50
外	10,369	15,533.50		
	2,231,511	3,388,865.00		

整理前後所有権借地権評定権利指数調

種別	整理前		整理後	
	指数	価格	指数	価格

合計	所有権		借地権	
	外 (内私道)	内 (内私道)	外 (内私道)	内 (内私道)
外 二、三三、五五一	二七、一六二、三九 <sup>四</sup>	四〇、七四三、四九三 <sup>四</sup>	二、九六一、七六	一七、三五、九二 <sup>四</sup>
(内私道) 一〇、三六九	一五、五五三、五〇	一五、五五三、五〇	一九、四二、六四・〇〇	二、九二、二三
四〇、二四、一〇 <sup>五</sup>	六〇、一八六、一七・五〇	六〇、一八六、一七・五〇	二、九六一、七六	二、九二、二三
三、三三八、八三六・五〇	三、三三八、八三六・五〇	三、三三八、八三六・五〇	一九、四二、六四・〇〇	一九、四八八、一八三・〇〇
六〇、三三、〇四〇	四〇、二四、一〇 <sup>五</sup>	四〇、二四、一〇 <sup>五</sup>	二、九六一、七六	六〇、三三、〇四〇
二、三三、五五一	二、三三、五五一	二、三三、五五一	二、九六一、七六	二、三三、五五一

備考 一 整理前外書は潰地充當用買収地の指数及價格なり。  
 二 整理前の總指数(潰地充當用買収地の指数を包含するものは四二、三五六、六五六個なり。  
 三 整理前宅地總指数(私道の指数を含まざるものは四二、三四六、二八七個なり)。  
 尙整理前後に於ける土地権利割合を表示すれば左の如し。

整理前後土地権利割合調

區域	土地権利割合		
	所有権	借地権	計
一 今川橋方面より市電須田町停留場に至る路線(整理後萬世橋驛角在來電車通を縮少したる十一米路線)			

第八地區 甲 整地

一 九段方面より小川町、須田町を経て萬世橋驛南省線ガードに至る路線（整理後幹線第二號中駿河臺下より佐柄木町曲折點迄、其の他在來電車通を縮少したる十一米路線の區間）	五〇	五〇	一〇〇
一 其の他在來電車通（幹線第十九號、同第十二號、補助線第八號、同第五十八號） 一 省線神田驛北口より西方錦町三丁目に至る路線（幹線第四十九號） 一 淡路町二丁目一番地先より昌平橋に至る路線（幹線第三十五號の一部）	五五	四五	一〇〇
一 其の他	六〇	四〇	一〇〇
一 河岸地	四五	五五	一〇〇

備考 區域欄の括弧内は整理後の街路別を示す。

## 第五章 換地處分

### 第一節 換地處分案の決定

土地各筆清算に關する件は昭和四年十二月二十六日土地區劃整理委員會に附議し、同日原案の通可決

し、換地處分に關する件及補償金の配當に關する件は昭和五年二月四日同委員會に附議し、共に同日原案の通可決したるを以て、即日内務大臣に土地區劃整理設計、換地處分及土地補償金の配當方法決定に關する認可申請を爲し、同月六日認可、同日内務省告示第三十二號を以て換地處分認可の告示あり、依

第五章 換地處分

第一節 換地處分案の決定

土地各筆清算に關する件は昭和四年十二月二十六日土地區劃整理委員會に附議し、同日原案の通可決

し、換地處分に關する件及補償金の配當に關する件は昭和五年二月四日同委員會に附議し、共に同日原案の通可決したるを以て、即日内務大臣に土地區劃整理設計、換地處分及土地補償金の配當方法決定に關する認可申請を爲し、同月六日認可、同日内務省告示第三十二號を以て換地處分認可の告示あり、依て即日東京市告示第四十一號を以て右換地處分の件認可ありたるに付、土地補償金受領権利者は二月六日より同月十二日迄に東京市復興事業局第二出張所に申告書を提出すべき旨を告示せり、而して本地區に於て換地處分を爲したる土地は所有地整理前千二百三十六筆、整理後千九十九筆、借地整理前三千三百件、整理後三千八百八十八件なり、土地權利者は所有權者整理前五百七十四人、整理後五百七十二人、借地權者整理前後共二千三百五十二人なり。

土地各筆清算に際しては整理前要清算宅地評定權利指數四千十二萬四千五百五個を以て、換地の評定權利指數四千二十一萬八千四十三個を除したる比率一〇〇二三四一二を、整理前の各筆權利指數に乗じて整理前の比例權利指數を算出せり。

換地處分の結果左の如し。

一 清算を爲したるもの

換地 説明 書別	從前の土地		換地		地		計算上の清算		徴收	
	面 積	比例權利指數	面 積	評定權利指數	權利價格	權利指數	徴收 の殺し得るもの	徴收 の殺し得るもの	徴收 の殺し得るもの	徴收 の殺し得るもの
甲	所有地 借地	權利價格	所有地 借地	權利價格	徴收	徴收	徴收	徴收	徴收	徴收
	二五、四〇五・二二、二二六・三〇〇 坪	二八、五五二・三九二 個	一三、六四四・七三三 坪	二八、五三二・一五五 個	一、〇〇〇、〇〇〇、〇〇〇 円	一、〇〇〇、〇〇〇、〇〇〇 円	一、〇〇〇、〇〇〇、〇〇〇 円	一、〇〇〇、〇〇〇、〇〇〇 円	一、〇〇〇、〇〇〇、〇〇〇 円	一、〇〇〇、〇〇〇、〇〇〇 円
	四二、八七二・〇八六・五〇〇 坪		九、七九三・三五五 坪							





権利者	區町丁目	地番	地目	權利別	面積	指權 數利	價 格	摘 要
中臺萬吉	神田區 美土代町三丁目	一六ノ六	宅地	所有權	三・三五 <sup>坪</sup>	六四 <sup>圓</sup>	一、〇四一・〇〇 <sup>円</sup>	本人の希望申出 に依る
澤野みね 外十八名	同	一ノ三	私路	同	七・九三	一、四三	二、二四・五〇	道路敷
	同	一ノ一二	宅地	同	九・九三	四五七	六五・五〇	
	同	二ノ三	私路	同	五・三三	一、三三	一、九九・五〇	
	同	二ノ九	宅地	同	〇・五	一	一六・五〇	
計					一四・三三	三、三四	四、八三六・〇〇	
松任谷喜三郎	同 淡路町二丁目	三ノ四二	私路	同	一六・三三	二、六四	三、九五・〇〇	

二 換地を交付せず清算金を交付したるもの

計	同 美土代町一丁目 四六 宅地	四五ノ一 共 物揚場 一六・三〇	同 美土代町一丁目 三二 共 物揚場	二七三・八九	同
計	同 美土代町一丁目	四九・四三	三二	八三三・八	

同	同	同	同	同	同
神田區 錦町一丁目	一二	河岸地	一八・五 <sup>坪</sup>	神田區 錦町一丁目	六六
	二一〇	同	四八〇・〇〇		六七
					同
					六六
					河岸地
					一七・三三 <sup>坪</sup>
					共同物揚場

大窪十三		東京市		神田區	
同	計	同	計	同	計
一九ノ一	一九ノ四	二七	二七	二七	二七
宅地	同	河岸地	同	宅地	同
所有權	同	同	同	同	同
六九・五〇	二七・六三	七・九	九七・二三	一四・八九	一五・八八
三、四六二	一、四九二	一、六四九	四、九五四	三〇、一四三	三三、七九三
五、一九三・〇〇	二、三八・〇〇	二、四七三・五〇	七、四三一・〇〇	四、五、二四・五〇	四、七、六八・〇〇
道路敷	同	小面積にて一筆換地として不適當なるに依る	協定による	協定による	協定による
一六ノ三	一六ノ三	同	同	同	同
鐵道用地	同	同	同	同	同
一五・七	一五・七	同	同	同	同
四三	四三	同	同	同	同
六九・五〇	六九・五〇	同	同	同	同
道路敷	道路敷	同	同	同	同
一六〇〇	一六〇〇	同	同	同	同
一〇八	一〇八	同	同	同	同
一、〇六・〇〇	一、〇六・〇〇	同	同	同	同
同	同	同	同	同	同
一七・九二	一七・九二	同	同	同	同
五七四	五七四	同	同	同	同
八六・〇〇	八六・〇〇	同	同	同	同
同	同	同	同	同	同
四・二四	四・二四	同	同	同	同
九三	九三	同	同	同	同
二九・五〇	二九・五〇	同	同	同	同
同	同	同	同	同	同
五ノ三	五ノ三	同	同	同	同
同	同	同	同	同	同
二七四・五〇	二七四・五〇	同	同	同	同
同	同	同	同	同	同
三ノ三	三ノ三	同	同	同	同
同	同	同	同	同	同
六七・五〇	六七・五〇	同	同	同	同
同	同	同	同	同	同
一ノ二	一ノ二	同	同	同	同
同	同	同	同	同	同
五四・五〇	五四・五〇	同	同	同	同
同	同	同	同	同	同
一ノ三	一ノ三	同	同	同	同
同	同	同	同	同	同
一〇・五八	一〇・五八	同	同	同	同
同	同	同	同	同	同
三八	三八	同	同	同	同
同	同	同	同	同	同
五〇八・五〇	五〇八・五〇	同	同	同	同
同	同	同	同	同	同

第八地區 甲 整地

鐵道省

同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
						小柳町				須田町		
三 七 ノ 三	一 九 ノ 三	一 八 ノ 四	一 六 ノ 三	一 五 ノ 三	一 七 ノ 四	二 〇 ノ 一 〇	一 四 ノ 九	一 四 ノ 八	一 四 ノ 七	一 四 ノ 六	二 ノ 三	一 ノ 二
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
五・三〇	二八・四五	三三・五三	二八・二五	三三・五〇	三三・五五	五四・三三	三三・〇〇	〇・八二	一八・八五	五・六〇	一〇・五八	一一・二六
一、五五四	八、八八四	九、六四三	一一、〇〇三	一八、二六七	九、九六七	二、八三一	一〇五	四三	六七四	一九六	三三九	三六一
二、二六・〇〇	一三、二七・〇〇	一四、四六・五〇	一六、五四・五〇	二七、四〇・五〇	一四、九五・五〇	四、二四・五〇	一五七・五〇	三三・〇〇	一、〇二・〇〇	二九・〇〇	五〇八・五〇	五四・五〇
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同

第八地區 甲 整地

合	原田直平	小栗清次郎	神田區	計	同	同	同	同	同	同	同	同	神田區
計	同	同	同	計	同	同	同	同	同	同	同	同	柳町
	四七ノ内	六ノ一内	五ノ一ノ(4)		三三ノ一	三五ノ一	三五ノ一	三五ノ一	三五ノ一	三五ノ九	三五ノ八	三五ノ八	三七ノ四
	同	同	宅地		同	同	同	同	同	同	同	同	鐵道用地
	同	同	賃借權		同	同	同	同	同	同	同	同	所有權
	一・五〇	三・七五	四九・三		一・一〇	三・九七	二・一〇	七・三五	〇・〇七	一三・〇五	二・五一	〇・七三	
	一四九	一六五	一、八六四		三、七二六	二、〇三七	一、六九四	二、四六〇	一三	四、三六八	八四〇	二〇九	
	三七三・五〇	三九七・五〇	二、七六・〇〇		五、五七四・〇〇	一六、五五・五〇	二、五二・〇〇	三、六〇・〇〇	三、四・五〇	六、五三・〇〇	一、二六〇・〇〇	三三三・五〇	道路敷
	同	小面積にて一筆 換地として不適 當なるに依る	協定による		同	同	同	同	同	同	同	同	

三 換地を交付せず且清算金を交付せざりしもの

権利者	區町丁目	地番	地目	面積	摘要

原田直平	同	二一ノ内	同	同	一・五〇	二四九	三七三・五〇
合計	同	四七ノ内	同	同	一〇・二・五	一三三・二八	一九九・九一・五〇
					四・四七	二、三六	三、五七・〇〇

三 換地を交付せず且清算金を交付せざりしもの

権利者	區町丁目	地番	地目	面積	積算	摘要
堀越角次郎	神田區 美土代町二丁目	一ノ八	私設道路	四三・〇〇	道路敷	
合名會社 安田保善社	同 錦町三丁目	二四ノ二 外九筆	同	七七・〇三	同	
木村惠吉郎	同 一丁目	一〇ノ四	同	五五・五〇	同	
峰島合資會社	同 表神保町	一ノ四	同	二四・二二	同	
	同 美土代町四丁目	五ノ二	道路	六〇・七〇	同	
	同 錦町一丁目	一〇ノ五 外一筆	同	九・七〇	同	
	同 小川町	一ノ二 外三二筆	同	一、三九・五〇	同	
	同 淡路町一丁目	一ノ三	同	四三・一七	同	
	同 佐柄木町	一九ノ二 外二筆	同	一、五二・五〇	同	
	同 西今川町	一ノ三	同	三・三〇	同	
	同 鍛冶町	一八ノ二 外二筆	同	六二・九三	同	

第八地區 甲 整地



內務省

同	同	同	同	同	同	同	神田區 美土代町一丁目	小計	同	同	同	同	同
同	錦町一丁目	同 四丁目	同	同	同	同			佐柄木町	小川町	錦町一丁目	小川町	
一九ノ一六	一九ノ一〇	二ノ四	一三ノ三	一ノ七	一七ノ五	八ノ六			二一ノ一	四三ノ四	一九ノ四三	三三ノ二	
同	同	同	同	同	同	官有地			道	同	官有地	同	
二・七同	九・三同	二九・九同	二七・三同	八・六同	二〇・九同	三六・六 潰地充當用買收地			一五・三同	一〇・三同	三・五同	三・七同	

同	小計	小計
錦町一丁目		
一〇ノ二筆		
道		
路		
三・七道路敷	七・〇三	七・五〇





第八地區

甲 整地

同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
關	同	同	新	同	同	同	同	同	同	同	同	雉	同
口			銀									子	
町			町									町	
三ノ二	三八ノ二	三七ノ二	一〇ノ二	三二ノ三	三二ノ二	三一ノ二	七	六ノ一	五	四	一	一九	
同	同	官有地	内務省用地	同	同	官有地	同	内務省用地	同	同	同	同	
一六・三	三・〇	三・九	三・九	六・八	二〇・四	三〇・七	七・三	五・六	三・九	九・六	三・三	一・五	
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	

内務省

同	同	同
同	三河町二丁目	南甲賀町
同	同	合併
六	五ノ二	四ノ二
同	同	同
三・三	八・七	五・六
同	同	同

第八地區 甲 整地

內務省

同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	神田區
同	佐	鎌	同	同	同	同	松	同	皆	同	同	同	關田區
	柄	倉					下		川				口
	木	町					町		町				町
一五ノ二	一一ノ三	二一	一五ノ四	一五ノ三	一五ノ二	一三ノ三	三三	二〇ノ二	七ノ三	六ノ三	五ノ二	四ノ二	
同	官有地	內務省用地	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	官有地
二六・四同	二〇・九同	一三・四同	一三・七同	一三・七同	一五・三同	一三・八同	二〇・六同	二〇・四同	一四・四同	五・三同	二〇・六同	一八・六同	潰地充當用買收地

第八地區 甲 整地

同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同

同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同

二一ノ二〇 二一ノ一九 二一ノ一七 二一ノ一六 二一ノ一五 二一ノ一四 二一ノ一二 二一ノ一一 二一ノ一〇 二一ノ九 二一ノ八 二一ノ七 二一ノ六

同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同

同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同

外道路

二六・七同 三〇・八同 一〇・六同 一〇・七同 三三・五同 三三・四同 二〇・九同 二二・七同 三三・五同 三五・九同 三五・七同 四四・九同 三三・八同

内務省

同 同 同  
同 佐 録  
同 柄 倉  
同 木 町  
同 町

一五ノ二 一ノ三 二

同 官有地 内務省用地

一六・四同 一三・九同 一三・四同

第八地區 甲 整地

内務省

神田區  
佐田  
柄木町

同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
二二ノ四九	二二ノ四六	二二ノ四五	二二ノ四四	二二ノ四二	二二ノ四一	二二ノ三九	二二ノ三六	二二ノ三四	二二ノ三〇	二二ノ二六	二二ノ二二	二二ノ二一
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	官有地

二六・五 潰地充當用買收地

三〇七	一九〇	一四・五	三〇・五	一九・五	二六・九	一六・六	一四・七	一〇・四	一〇・七	二・六	四・七	二六・五
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	潰地充當用買收地

同 同 同

二二ノ五四 同  
二二ノ五三 同

四三・〇 同  
一七・二 同

第八地區 甲 整地

同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同

二二ノ七五 二二ノ七四 二二ノ七一 二二ノ六九 二二ノ六八 二二ノ六五 二二ノ六四 二二ノ六三 二二ノ六二 二二ノ六〇 二二ノ五七 二二ノ五四 二二ノ五三

同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同

七・九 同 五・四 同 一六・六 同 五五・九 同 五九・七 同 三〇・五 同 一六・五 同 六・六 同 一五・三 同 五五・九 同 六五・〇 同 四五・三 同 一七・二 同

内務省

同 同 同

二二ノ四九 二二ノ四六 二二ノ四五

三・七 同 一九・〇 同 一四・五 同

內務省

同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	神田區
鍛冶町	堅大工町	旭	同	同	蠟燭	同	同	同	同	同	同	同	柄木町
		町			町								
二六ノ八	二六ノ一	一七ノ二	五ノ二	五ノ一	四ノ三	二ノ八四	二ノ八三	二ノ八二	二ノ八〇	二ノ七九	二ノ七八	二ノ七七	官有地
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	

三三・六	三三・九	三三・〇	九・九	八・三	四・六	一・六	五・〇	六・八	三・三	一五・九	六・三	一・八	潰地充當用買收地
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	

同 同  
鍛冶町 堅大工町

二六ノ八 二六ノ一  
同 同

三三・六 三三・九  
同 同

第八地區 甲 整地

同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
同	同	同	同	同	連	小	同	同	鍋	黑	鍛	同
					雀	柳				門	冶	同
					町	町			町	町	町	同
一六ノ二	一五ノ二	一四ノ四	一四ノ三	七	四	二七ノ二	一〇	九ノ一	八	四ノ一	三九	二二ノ二
同	同	同	同	同	官有地	內務省用地	同	同	同	同	同	同
三〇・九	二六・〇	一四・六	三・八	九・六	四・七	一四・七	八・五	六・〇	八・九	二・五	二九・三	五・五
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同

內務省

同	同	同
同	同	旭
		町
二六ノ八	二六ノ一	一七ノ二
同	同	同
三・六	四・九	三・〇
同	同	同

第八地區 甲 整地

五七四

內務省												
神田區	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
多町	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
二丁目	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計
四ノ二	七ノ二	一六ノ一	二〇ノ二	二二ノ二	三ノ二	一八ノ一	一八ノ六	一九ノ四	二二ノ二	二四ノ二	同	同
內務省用地	官有地	同	同	同	同	官有地	官有地	官有地	官有地	官有地	官有地	官有地
三七三・元	二〇九・九	五〇・九	三三・四	六・三	五・〇	二・七	一〇・八	三・六	六・四	八・五	七・九	七・五
潰地充當用買收地	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
外道路	外道路	外道路	外道路	外道路	外道路	外道路	外道路	外道路	外道路	外道路	外道路	外道路
一・五	七・九	三・三	一・三	一・三	一・三	一・三	一・三	一・三	一・三	一・三	一・三	一・三
道路敷	道路敷	道路敷	道路敷	道路敷	道路敷	道路敷	道路敷	道路敷	道路敷	道路敷	道路敷	道路敷
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同

高山保盛 株式會社

同 神田區 錦町 一丁目

二九ノ三

私設道路

同 一・五 道路敷



小計	計	外道路 七、五九・六	外道路 七、九〇・九〇
		外道路 一三・四	外道路 一三・四

東武株式會社	神田區 錦町一丁目	一一ノ三	道路	一・五	道路敷
高山保盛	同 千代田町	二九ノ三	私設道路	五・五	同
合計				一六、五八・六	外道路 一三・四

三 所有權以外の權利又は處分制限の指定を爲したるもの

- 一 既登記の所有權以外の權利の指定を爲したるもの地上權三件、地上權假登記十四件、抵當權三百四十九件、抵當權假登記二件、賃借權六件、賃借權假登記二十三件あり。
- 二 處分制限の指定を爲したるもの假處分一件、所有權假登記二十六件、差押一件、競賣申立三件、豫告登記一件あり。
- 三 未登記の所有權以外の權利の指定を爲したるもの賃借權三千二百五十四件あり。  
備考 右の外係争中の賃借權四十五件、借地法第九條該當地一件あり。

第二節 清算金

第一 土地補償金を以て徴收清算金に充當

本地區に於ける換地處分は昭和五年二月六日內務大臣の認可あり、而して清算金徴收額は百七十萬九千三百五十三圓五十錢にして人員千二百八十九人なり、又土地補償金は同月十三日補償審査會に於て三十九萬九千八百六十四圓人員二千九百七十六人と決定せられ、同月十七日其の通知を受けたり、依て同年三月五日左記の通補償金を以て徴收清算金に充當處分を爲したり。

第八地區 甲 整地

徵收清算金總額		補償金總額		補償金充當額		充當後徵收清算金		充當後交付補償金	
金 額	人員	金 額	人員	金 額	人員	金 額	人員	金 額	人員
一、七〇九、三三三・五〇 <sup>円</sup>	一、二八九	三九八、八六四・〇〇 <sup>円</sup>	二、九七六	一九、一七六・〇〇 <sup>円</sup>	一、二八六	一、五四〇、一七七・五〇 <sup>円</sup>	一、二七二	二三〇、六八八・〇〇 <sup>円</sup>	一、八三二

### 第二 換地處分に關する通知

換地處分に關する通知書は豫め換地説明書及補償金清算金臺帳に依り之を作成し置き、前記充當處分を爲したる後直に之が送達に著手し、市内居住者に對しては人夫を使用して之を送達し、其の他に對しては書留郵便を以て之を送達せり。

人夫を使用して送達したるもの二千七百五十七通、内送達を了したるもの二千四百三十八通、現住所不明の爲持歸りたるもの三百十九通なり、又書留郵便に附したるもの二百十九通、内送達済のもの百九十二通、現住所不明として返送せられたるもの二十七通、其の他官公署に對するもの七通にして、結局送達を了したるもの計二千六百三十七通、送達不能なりしもの計三百四十六通なり。

前記の如く多數送達不能となりたるは、轉居に因る現住所の異動又は權利者の變更ありたるも其の申告を怠りしに因るものにして、是れ等に對しては同五年三月十七日より地主又は管理人若は借家人等に就き種々苦心の結果現住所を調査し、同年九月二十九日迄に夫々送達を了したり。

### 第三 清算金の徵收

本地區に於ける徵收清算金總額は百七十萬九千三百五十三圓五十錢なりしが、内十六萬九千七百七十六圓に對し土地補償金を以て充當したる結果、各納付義務者より直接徵收すべき清算金は差引金百五十四萬百七十七圓五十錢にして、人員千七百七十二人なり。

右徵收人員千七百七十二人中分納申請資格者即ち百圓以上納付すべきもの八百八十八人なるも、内官公署分三件を除き差引八百八十五人に對し、分納申請期限を昭和五年三月二十日とし同月五日附を以て換地處分に關する通知書と共に分納申請書用紙を送付し置きたる處、右期限内に申請書を提出したるもの

第三 清算金の徴収

本地區に於ける徴收清算金總額は百七十萬九千三百五十三圓五十錢なりしが、内十六萬九千七百七十六圓に對し土地補償金を以て充當したる結果、各納付義務者より直接徴收すべき清算金は差引金百五十四萬百七十七圓五十錢にして、人員千七百七十二人なり。

右徴收人員千七百七十二人中分納申請資格者即ち百圓以上納付すべきもの八百八十八人なるも、内官公署分三件を除き差引八百八十五人に對し、分納申請期限を昭和五年三月二十日とし同月五日附を以て換地處分に關する通知書と共に分納申請書用紙を送付し置きたる處、右期限内に申請書を提出したるもの五百六人にして、資格者總數に對し五割七分餘なりしも、尙同年四月二十一日未提出者三百七十九人に對し、同月三十日迄に提出方注意を促せし處、右期限迄に提出したるもの百四十三人ありて結局申請者合計六百四十九人となり、資格者總數に對し七割三分となりたり。

依て右申請書を審査の上、同五年四月三十日分納許可の決定を爲し、同日各申請者に對し許可書を送付せり。  
今分納清算金に付其の内譯を示せば左表の如し。

回数區分	元	金	利	子	計	人員	納期限
一	一三、四七三・六	一〇、四三三・三	四〇、三七〇・四	一	一三、四七三・六	六四九	昭和五、七、三
二	九、六八三・五	九、八元・五	三、〇七〇・〇	一五、六九二・六	一五、七〇〇・九	六四九	同 六、一、三
三	九、八元・五	九、〇元・九	三、〇三〇・三	一三、八五七・七	一三、八五七・七	五七	同 七、一、三
四	九、〇元・九	九、〇元・九	二、〇七三・六	二七、〇七三・六	二七、〇七三・六	四七五	同 七、三
五	九、九四〇・五	九、九四〇・五	一四、〇七六・三	二四、〇一〇・四	二四、〇一〇・四	四四〇	同 八、一、三
六	九、〇九二・八	九、〇九二・八	二〇、〇七九・〇	二六、一七一・八	二六、一七一・八	四〇三	同 七、三
七	九、七九二・〇	九、七九二・〇	一六、三五五・五	二四、〇四七・九	二四、〇四七・九	三六八	同 九、一、三
八							

第八地區 甲 整地 五七七

計	二	〇	九		
	一、三九、三九六・三	一〇五、〇九二・七	一〇二、八四・七四	一〇〇、三〇〇・五	
	三三、四八・元	四、一九九・六	八、三二・八	一二、三三・七六	
	一、三六〇、四七・九	一〇九、三六・九	一一、二六・五	一二、六四・三	
					昭 和 九、七、三
					同 一〇、一、三
					同 七、三

本地區の清算金徴收事務は神田區役所に於て取扱ふものにして、昭和五年三月より之が徴收を開始せり。

#### 第四 清算金の交付

本地區に於ける交付清算金總額は百七十萬九千三百五十三圓五十錢にして、昭和五年四月二十四日之が支拂を開始し、同六年三月末日迄に交付せし金額百六十四萬七千八百八十五圓八十六錢なり。

而して前記交付済額中神田區役所に於て支拂を爲したるもの百四十六萬千五百五十二圓八十六錢、官廳の納入告知書に依り市會計課に於て納付したるもの十七萬五千二百三十六圓(内務省及鐵道省分)他地區の徴收清算金と相殺に依り支出したるもの八千八百二十七圓五十錢(本市電氣局分)及抵當權者の支拂同意なき爲、東京供託局に供託を爲したるもの千九百六十九圓五十錢なり。

### 第六章 土地補償金

#### 第一 補償金の算定並決定

本地區に於ける宅地減歩率は一割五分九厘三〇八二なりしを以て、特別都市計畫法第八條に依り補償金の交付を要する爲、同法第五條の規定に依る補償金の配當割合を定むるに當り、幹線街路敷充當用として國に於て買收したる土地及補助線街路電氣事業用地並小公園敷充當用として市に於て買收したる土